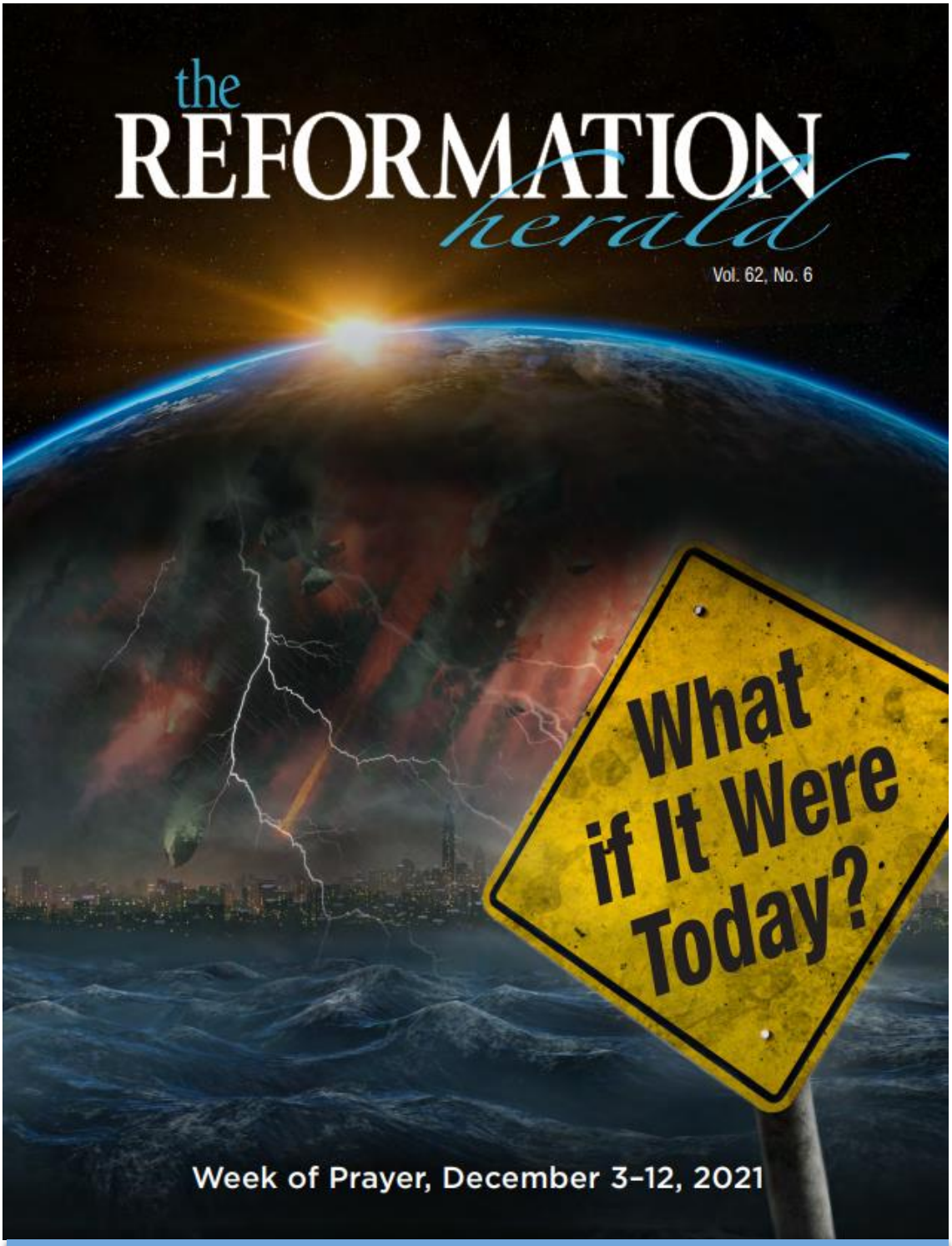


年末祈祷週 2021 年 12 月 3 日-12 日

「もし、それが今日であれば？」

The Reformation Herald
Volume 62, Number 6

編集記
闇の中の光・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

約束
キリストの再臨という絶対的な確証を
すべての信徒が心に抱くことができる・・・・・・・・・・・・・・4

今は夜のなんどきですか？
地上歴史の最も暗い時に、
わたしたちにはなすべき任務がある・・・・・・・・・・・・・・・9

敵の戦術を識別する
大欺瞞者にはわたしたちにしかけた多くのわながあるが、
神はどのようにそれらを感知するか教えて下さる・・・・15

ノアの時代のように
世の中の悪は驚くにあたらない―しかし間近に迫る
キリストの来臨の証拠はたしかである・・・・・・・・・・・・・21

近代の欺瞞
この世代の洗練された先端技術の偽りによって
翻弄される必要はない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

待ち、そして早める
聖書はキリストのまもない再臨のために
積極的に準備することを教える・・・・・・・・・・・・・・・・・24

すべてが終わった
罪はついに終わりがおとずれる―そして
新しい始まりを経験するよう招かれている！・・・・・ 28

もし今日であれば？
詩によって表現された思想のための厳粛な食物　32

終わりに近づいている

霊感を受けた詩篇記者は主に次のように祈りました「われらにおのが日を数えることを教えて」―その理由もはっきり述べています－「知恵の心を得させてください」（詩篇 90:12）。

ただの死すべき存在として、わたしたちにはこの地上で限られた時間しかありません。イエスは、「ご自身の模範によって、一刻一刻が永遠の結果を伴っていること、したがってその一刻一刻は宝として大切にし、聖なる目的のために用いなければならないことをお教えになった」（各時代の希望上巻 91）。

毎年の祈祷週はわたしたちの心からの感謝を、自分の創造主に表現する貴重な機会を与えてくれます。深いまごころから、このお方の恵みの御座に熱烈な賛美、感謝、告白、また嘆願の言葉を捧げましょう。

今年の読み物シリーズの主題**「もし今日であれば？」**は、わたしたちに時のしるしがはっきりと人類に与えられている恵みの時はほとんど終わろうとしていることを明らかにしていると警告しています。わたしたちはキリストの力を通して、緊急に忠実な準備の状態に入る必要があります。

ですから、各自祈りのうちにこの祈祷週の読み物を考え、遠隔地にいる人や家から離れられない他の人ともこれらを分かち合いましょう。また、次の日を覚えてください

祈りと断食の日：　12 月 11 日安息日
伝道献金：　12 月 12 日日曜日

聖霊が深くわたしたちの心に驚くほどの時の短さ、―そして主を見出すことができるうちに求め、近くおられるうちに呼び求めるすばらしい機会を印象づけて下さいますように。「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである」（ローマ 13:11）。

セブンスデー・アドベンチスト改革運動公式出版
「世界で最も欠乏しているものは人物である。それは、売買されない人…である。」（教育 54）

編集者：L. トゥドロイウ　編集者補佐：B. モントローズ　デザイン：E. リー　Illustrations: Adobe Stocks.

闇の中の光

真理対偽物。正直対偽り。透明対不鮮明な混乱。

わたしたちは地上歴史の最終的な事件、全般的な混乱に急速に近づいています。近代文明というバビロンの哲学や習慣がわたしたちの目前で崩壊しています。諸国家は怒り、激情はたきつけられ、指導者たちは激怒しています。残されている時間は多くありません。

現在社会が直面している最大の課題の一つは、第 9 条の違反のようです。「あなたは隣人について、偽証してはならない」（出エジプト記 20:16）。偽情報が無知のうちに報告されており、また欺こうとする意図をもって偽情報が故意に広められていますが、両方とも猛威を振るっており、十戒の創造主の道徳律のもう一つの違反です。神を恐れる民は、このような圧倒的な反対に、どのように対処することができるでしょうか。

使徒は次のように強く勧めています、「最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい」（エペソ 6:10−13）。

上を見る

だれ一人まったく暗黒に驚く必要はありません。事実、「キリストが来られるのも、この地上歴史の最も暗黒の時である」[1]

わたしたちがいつも第一に念頭におかなければならないことは次です、わたしたちの主なる救い主イエス・キリストはご自分の忠実な子らを、まもなく彼らに対して不正に引き起こされようとしている激しい迫害から救出するために来られる、ということです。このお方の無限の愛のうちに、だれも恐れることがないように、あらかじめ起こるべきことを説明してくださいました。このお方はわたしたちに「わたしが帰って来るまで、これで商売をしなさい」と命じておられます（ルカ 19:13）。「見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあらわれる」（イザヤ 60:2）。

「キリストの再臨の正確な時は明らかにされていない。イエスは、『だれもその日や時は知らない』と仰せになった。しかし、またこのお方はご自分の来臨のしるしを与えて次のように言われました。『このようにあなたがたも、これらの事が起るのを見たなら、神の国が近いのだとさとりなさい』。このお方は彼らに命じて、これらのことが起こったら、『身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから』と言われました。そしてこれらのことを見て、使徒は次のように記しました。『あなたがたは暗やみの中にいないのだから、その日が、盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう。あなたがたはみな光の子であり、昼の子なのである』。わたしたちは、キリストの来臨の時を知らないのだから、この現代の世において『祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望み』、目覚めて信心深く生きなければならない。

キリストはご自身をわたしたちのために与えて下さった。それはこのお方があらゆる悪からわたしたちを贖い、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためである。このお方の民は神の代表者として彼らの特別な品性を保つべきである。彼らの一人びとりに、なすべき働きがある。もし神と共に働く効果的な働き人になりたければ、金持ちは自分の資金を持ってくるべきであり、栄誉ある人は自分の感化力を、学識のある人は自分の知恵を、貧しい者は自分の徳を持ってこなければならない。彼らは自らを神との正しい関係におき、こうしてイエス・キリストのみ顔に輝く神の栄光の光を反映できるようにしなければならない。わたしたちはイエスの来臨をはるか遠い先へ延ばす種類の人々について読む。しかし、そのような人々にこのお方の来臨は夜の盗人のようにおとずれ、そして彼らは突然滅びに襲われるのである。どれほどの人が肉の安全というゆりかごの中であやされながら寝ることを望んでいるであろうか。しかし、わたしたちが眠りから目覚めるべき時が来ている。使徒は次のように言っている、『わたしたちは、夜の者でもやみの者でもない。だから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして慎んでいよう』。」[2]

参照文献:
1. キリストの実物教訓 390
2. ｻｲﾝｽﾞ･ｵﾌﾞ･ｻﾞ･ﾀｲﾑｽﾞ 1889 年 6 月 24 日

2021 年 12 月 3 日金曜日

「主は、もうすぐ来られる。あなたは準備をしなさい」という胸を躍らせるような真理は、過去、何年もの間、わたしたちの耳の中で響き渡ってきたが、その真理は、わたしたちに最初に示されたときと同じく現在においても真実である。教会と神の民のもっとも大切な関心、および悔い改めない不敬虔な人々のこの世と永遠の運命が、ここに関わっている。わたしたちは皆、裁きを受けなければならない。「主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから〔主の来臨まで〕生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。」（テサロニケ第一 4:16, 17）。その後、キリストは天から姿を現し、「神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たちに報復」する（テサロニケ第二 1:8）。[1]

救済の場面

「天から神のみ声が聞こえて、イエスの来られる日と時とが宣言され、永遠の契約が神の民に伝えられるどんな雷鳴も及ばぬとどろきをもって、神のみ言葉が地上に鳴り響く。神のイスラエルは、耳を傾け、目を上方に注いで立っている。彼らの顔は神の栄光に照らされて、シナイ山から帰ってきたときのモーセの顔のように輝いている。悪人たちは、彼らを見つめることができない。神の安息日をきよく守ることによって神をあがめてきた者たちに、祝福が宣言されると、勝利の力強い叫びが起こる。

まもなく、東の方に、人の手の半分くらいの大きさの小さい黒雲が現れる。それは、救い主を囲んでいる雲で、遠くからは、暗黒に包まれているように見える。神の民は、これが人の子のしるしであることを知っている。彼らは、厳粛な沈黙のうちに、その雲が地上に近づくのを見つめる。それは次第に明るさと輝かしさを増し、ついには大きな白い雲となって、下の方には焼き尽くす火のような栄光が輝き、上の方には契約の虹がかかっている。イエスは、偉大な勝利者としておいでになる。今度は、恥辱と苦悩の苦い杯を飲む『悲しみの人』ではなくて、天地の勝利者として、生きている者と死んだ者とをさばくために来られる。…数えることができないほどの聖天使の群れが、天の聖歌をうたいながら、付き添う。大空は、『万の幾万倍、千の幾千倍』もの、輝く天使たちで満たされたように見える。この光景は、人間のどんな筆によっても描くことができない。その輝かしさは、どんな人間の頭でも十分に想像することはできない。…今はその聖なる頭を傷つけるいばらの冠はなく、その聖なる額には栄光の冠がある。そのみ顔は、真昼の太陽よりもまぶしく輝く。『その着物にも、そのももにも、「王の王、主の主」という名がしるされていた』（黙示録 19:16）。」[2]

わたしたちは今どこにいるか？

これらの重大な出来事は間近に迫っているが、真理を信じると公言する多くの人々は、まだ眠っている。もし、彼らがこの世を友とし続けるならば、彼らは、間違いなく、「自分の主人は帰りがおそい」と心の中でつぶやく不信な僕と共に数えられるようになる。キリストが罪を負うためではなく、救いを与えるために現れるのは、希望と信仰のう

ちに待っている者たちに対してだけである。多くの人々は、真理の理論を知っているが、信心の力を知らない。もし、神のみ言葉が心に宿ってるならば、そのみ言葉は、その人の生活を支配するだろう。信仰、純粋さ、神の意志への一致は、その聖化する力を証明する。[3]

思いの目の前に永遠の現実を置き続けなければならない。そうすれば、この世の魅力はありのままに、すなわちむなしい全く無益なものとして見えてくる。この世における虚栄心、賞賛、富、その名誉、楽しみは、わたしたちにとって価値があるだろうか。[4]

キリストが速やかに来られることを待望していると公言する多くの人々は、この世と妥協し、神によろこばれることよりは、周りの人々の賞賛を得ようと熱心に求めている。…そしてもし彼らが『忠実な、まことの証人』の言葉に聞き従い、熱心に悔い改めて、『火で精練された金』、『白い衣』、『目薬』を買わないならば、彼は彼らを口から吐き出されるのである。[5]

「サタンが心をとらえ、主の約束と要求から人々の気持ちをそらせようとするので、これを頭にきざみつけ、心に印象づけるには、一艘の努力が必要である。」[6]

わたしたちは寄留者、旅人であり、その祝福された希望、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち、望み、そして祈っている。わたしたちがこれを信じて、それをわたしたちの実際の生活に持ち込むならば、この信仰と希望はどれほど活発な行動を吹き込むことだろう。どれほどの互いを思う熱い愛があり、どれほど神の栄光のために注意深く聖なる生活を送ることであろう。そして、報酬に対するわたしたちの報いを考えて、わたしたちと世界との間にどのような明確な境界線が明示されることであろうか。[7]

時間は非常に、非常に近い

制御している神の御霊は、今でさえ、この世から引き上げられつつある。ハリケーン、暴風雨、火事、洪水、海と陸における災害は、矢継ぎ早に続く。科学は、これらすべての出来事を説明しようとしている。これらのしるしはわたしたちのまわりでますます濃くなり、神の子の再臨が近いことを告げているが、真の原因以外のあらゆることが原因だと思われている。守護を行っている天使たちは、神の僕たちが印されるまで四方からの風を吹きつけないように止めているが、人々はその天使たちを認識することができない。しかし、神が天使たちに風の制御を止めることを命じた後に生じる患難は、筆舌に尽くしがたい光景である[8]。

わたしたちは今、永遠の世界の淵にいるが、魂の敵は、わたしたちを導いてこの時代の終わりをはるか先に延ばそうとしている。サタンは、律法を守る民であると公言し、雲に乗って、偉大な栄光を伴って来られる救い主の再臨を待っていると公言する人々を、あらゆる手段を用いて攻撃する。サタンは、できる限り多くの人々を導き、その恐ろしい日をできるだけ遅らせ、世の習慣を模倣させ、精神において世と同じにしようとしている。わたしは世の精神が真理を高らかに公言する多くの人々の心と思いを支配しているのを見たときに、大きな危機感を覚えた。彼らは、利己心、自己放縦をいだき、真の信心深さや正真正銘の高潔さは培われていない…

時間が非常に短いことを考えるとき、わたしたちは神の民として、見張り祈るべきであり、またわたしたちの前にある偉大な出来事のための準備という厳粛な働きからそらされるようなことを決して許してはならない。一見時が延ばされているように見えるため、人々は、自分の発言や行動に不注意かつ無関心になっている。彼らは、自分たちの危険を認識しておらず、神が憐れみによって、将来の不死の命のために品性を形成できるよう恩恵期間を延長しておられることを理解していない。毎瞬間に最高の価値がある。時が彼らに与えられているのは、自分たちが楽をしたり、この地上の住民となるためではなく、自分の品性の一つ一つの欠陥を克服する働きと、また模範と個人的な努力により他の人々が聖潔の美を見ることができるように助ける働きに用いるためである。神は、地上に民を持っておられ、その民は信仰と神聖な希望のうちに、速やかに実現している預言をたどり、また真理に従うことによって自分たちの魂を清めようと努めている。こうして、自分たちがキリストが来られる時に、礼服を着ないでいるところを見出されないためである。[9]

「愛する兄弟姉妹がた、神の戒めとイエス・キリストのあかしを常に心に抱いていよう。そして、それに世の思いと煩いを閉め出していただこう。寝るときも起きるときもこれを瞑想しよう。人の子の来られることを常に考えて生活し、すべての行動をとろう。印する時は非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引きとめている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。」[10]

わたしたちは、地上の歴史の最後の場面に生存している。預言は、速やかに成就している。恩恵期間は、速やかに過ぎ去っている。

わたしたちには時間がなく、一瞬も無駄にすることはできない。わたしたちは、見張り人として眠っている所を見出されないようにしよう。だれも心や行いのうちに「自分の主人は帰りがおそい」と言ってはならない。キリストの再臨が近いというメッセージが熱心な警告の言葉のうちに鳴り響くようにしよう。わたしたちは、どこにいる人でも悔い改めて来たるべき怒りから逃れるように男女を説得しよう。すみやかに準備するよう彼らを目覚めさせよう。なぜなら、わたしたちの前に何があるのか、ほとんど何も知らないからである。[11]

その時は、どのくらい近づいているのか？

「弟子たちは、『あなたがまたおいでになる時や、世の終わりには、どんな前兆がありますか』とたずねた。イエスは、彼らにしるしを与えて、そして言われた。『そのようにすべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい』（マタイ 24:3, 33）。救い主の一つの言葉をもって、他の言葉を無意味にしてはならない。彼が来られるその日、その時はだれも知らないが、われわれは、それが近づくときについて教えられており、また、それを知るように求められている。さらにまた、神の警告を無視し、主の再臨が近いことを知ることを拒み、またおろそかにすることは、ノアの時代の人々が洪水の来るのを知らなかったのと同様に、われわれにとっても致命的であることが教えられている。…『もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない』（黙示録 3:3）。」[12]

わたしたちが当初、信じていたときよりもキリストの再臨は近づいている。大闘争は、終わりに近づいている。神の裁きは、迫っている。それらは厳粛な警告のうちに叫んでいる。「だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」（マタイ 24:44）。

しかし、多くの人が、わたしたちの教会の中の多くの人が、この時代のための真理の本当の意味をほとんど理解していない。わたしは彼らに時のしるしの成就を軽視してはならないと訴える。それらははっきりと終わりが近いことを告げている。ああ、自分の魂の救いを求めてこなかったどれほど多くの人が、まもなく苦い嘆きをしなければならないことであろう。「夏が終わり、収穫は完了したが、わたしたちは救われていない」![13]

すべての魂の運命が永遠に確定する瞬間は、まもなくやってくる。その主の日は、速やかに近づいている。偽りの見張り人は、「すべてが順調だ」と叫んでいる。しかし、神の日は、迅速に近づいている。その足音が非常に小さいため、この世の人々は、死に至る眠りから目を覚まさない。見張り人が「平和だ、無事だ」を叫んでいる時に、「突如として滅びが彼らを襲ってくる」。「それから逃れることは決してできない。」なぜなら、「わなのように、地の前面に住むすべての人に臨むのである」からである。それは、快楽を愛する人々や罪深い人々を夜の盗人のように襲う。すべてが一見安全で、人々がゆっくりと休んでいるときに、その時に、徘徊していた盗人は、夜中、密かに、自分の獲物を襲う。悪を防ぐにはもはや手遅れになってから初めて、ドアや窓が安全ではなかったことに気づく。

「だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」。人々は、人気がある教会において、自分たちは安心だと感じている。しかし、すべての人は、敵が侵入できる場所が開いた場所が残っていないか注意しよう。この主題を人々に伝えるために多大な労苦が払われるべきである。この厳粛な事実は、この世の人々だけでなく、わたしたちの教会の前にもまた保たれていなければならない。なぜなら、主の日は、突然、予想していなかったかたちで訪れるからである。恐ろしい預言の警告は、全ての魂に向けられている。だれも、自分は不意に襲われることはない、と感じてはならない。偉大なる出来事が近づいていることを示す出来事について知識の確信は、どの人の預言の解釈によっても奪われてはならない。[14]

これは、わたしたちにどのような行動をとる動機となるだろうか？

イエス・キリストの再臨を待ち望むだけでなく、早めることは、全てのクリスチャンの特権である。もし、キリストの名を公言する全ての人々が、キリストの栄光のために実を結ぶならば、どれほどすみやかに全世界に福音の種がまかれていることであろう。すみやかに最後の収穫物が熟し、キリストは貴重な収穫を刈り取るために来られることであろう。

兄弟姉妹がたよ、聖霊を求めて嘆願しなさい。神は、ご自身がなされたすべての約束の背後におられる。あなた

の聖書を手に持ち、「わたしは、あなたから伝えられたことの全てを行いました」と言いなさい。わたしはあなたがなされた約束を提示します、『求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。』」[15]

牧師たち、および教会員たちは、実っている畑に入っていき、主を見いだすことができるうちに主を求めるよう、無頓着で無関心な人々に告げなさい。その働き人たちは、忘れられた聖書の真理を宣言すれば、どこでも、収穫物を見つけることができる。彼らは、真理を受け入れる人々を見つけることができ、その人々は、魂をキリストへ勝ち取るために自分の生涯を捧げるようになる。[16]

わたしたちの優先順位を明白にする

わたしたちは、自分の力とタラントをこの世の活動のために費やす時間はない。わたしたちは、この世に仕え、自分自身のために仕えることに夢中になり、その結果、永遠の命を失い、天における永遠の祝福を失っても良いだろうか。もちろん、そのようなことはできない！全てのタラントを神のみ働きのために用いよう。真理を受け入れた人々は、その努力によって、神と共に働く人々を増やすべきである…

全天は、キリストがなすためにこの世に来られた働きを成し遂げることに関心を抱いている。天における使者たちは、真理の光が地上の暗闇を照らすために道を拓きつつある。天使たちは、長年に渡ってわたしたちに委ねられてきた働きを担う人々に伝達しようと待っている。…

信心を公言し、キリストの再臨を信じていると述べていながら、まもなく地にくだろうとしている裁きについて諸都市に警告しないまま去る人々を、主は褒めることはおできにならない。そのような人々は、そのように責務を怠ったために裁かれる。キリストは、罪のうちに滅びようとしている人々を救うために、ご自身の貴重な命を捧げられた。わたしたちは、自分たちに委ねられた働きを拒み、神や天使たちと協力することを拒むのだろうか。こうしている人々、すなわちキリストと一体になることができず、キリストの偉大な犠牲が生活に、また義のわざのうちに真理が表される救いの恵みのうちに輝き出るようにしていない者が幾千といる。しかし、このみ働きこそ、神の子の犠牲によって人々に与えられたものなのである。わたしたちは、その事実を知りながら、無関心でいることができるだろうか。わたしは、わが兄弟がたに対して、目を覚ますようにと訴えたい。もし、わたしたちが魂をキリストへ導くことによって、霊的な機能を用いないならば、それは衰え、死滅してしまう。キリストがご自身の命を捧げてまで実現しようとした偉大にして壮大なみ働きをなおざりにすることに、どのような言い訳をすることができるだろうか。

わたしたちは、地上で残された数少ない日々を、些細な事柄や無益な事柄のために費やすことはできない。わたしたちは、神のみ前に自分の魂がへりくだらせる必要がある。こうしてすべての心が真理のうちに飲むことができるためである。そしてこれにより、わたしたちの生活において改革がなされ、世がこれこそ神の真理であると確信するようになる。わたしたちの命が、キリストと共に神のうちに隠されるようにしよう。わたしたちが、幼子のように主を求め、兄弟姉妹や忠実に神のみ働きの責任を担おうと努めている人々の中にあら捜しをするのをやめ、自分自身の心を神と正しくしようと努めるときにはじめて、神はわたしたちを御名の栄光のためにお用いになることができるのである。

自分たちの働きが神によって受け入れられるものとなるためには、自己犠牲の立場に立つ必要がある。もし、わたしたちの心の中に真理がないならば、わたしたちの公言は無意味であることを覚えていよう。わたしたちには、わたしたちをとらえる改心の力が必要である。それによって、わたしたちは、滅びようとしているこの世の必要を理解することができるようになる。わたしがあなたに伝えなければならないメッセージの重荷は、準備しなさい、主に会うための準備をしなさい、というものである。ランプの芯を切りそろえ、真理の光が道や垣根に輝き入るようにしなさい。…

兄弟姉妹よ、主にお会いすることができるうちに主を求めなさい。時間や機会を無駄にしてきた人々が、主を求めていたならと願うようになる日がやってくる。神は、あなたに理性の力を与えてこられた。神は、あなたがその理性に従い、働きに従うことを望んでおられる。神は、あなたがわたしたちの教会に来て、ご自分のために熱心に働くことを望んでおられる。神は、あなたが**教会の外にいる人々のために集会を開き**、人々が最後の警告のメッセージの真理を学ぶことができるようすることを望んでおられる。あなたが喜んで受け入れられる場所、魂が助けに来てくれたことを感謝する場所がある。**あなたがこれまでにとりかかったことがないほど、この仕事にとりかかるよう主が助けて下さるように。**

わたしたちは、まだ光を受けたことがない人々のための働きを始めようではないか。[17]

み約束は非常に、非常に現実的なものである

「イエスは来られる。しかし、それは、初臨の時にベツレヘムの赤子として来られたような姿ではない。また、弟子たちが神を賛美して、大声で叫ぶ中を、ロバに乗ってエルサレムに入って行かれたように、来られるのでもない。彼は天の父の栄光のうちにすべての聖なる天使たちを従えて、この地上に来られるのである。全天には、天使がいなくなる。彼がオリブ山から昇天されたときに、ガリラヤの人々が天を仰いだように、彼を待ち望む聖徒たちは天を仰ぐのである。その時、聖なる人々、すなわち、柔和な模範に完全に従った人々だけが、彼を仰ぎ見て『見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる』と、熱狂的な喜びに満たされて叫ぶのである。…

このような期待、このような輝かしい希望、このような贖いをキリストは、ご自分の血によって、われわれのために買い取られたことを考えるときに、われわれは、黙っていることができるだろうか。われわれは、イエスがエルサレムに入城されたときの弟子たちのように、大声で神を賛美すべきではないだろうか。われわれの将来の期待は、弟子たちのよりは、はるかに輝かしいものではないだろうか。われわれがこのような不死と栄光に満ち満ちた希望を持っているのであるから、大声で神に栄光を帰しても、われわれを禁じる者ではだれもいないであろう。」[18]

キリストの再臨のメッセージに、生ける力が伴わなければならない。多くの魂が主の再臨に対する祝福された希望へと改心するまで、わたしたちは休んではならない。使徒たちの時代においては、彼らが伝えたメッセージは、真の成果を実現させた。魂は偶像礼拝から生ける神へと導かれた。今日における働きは、その働きと同じように本当の成果をもたらす必要があり、真理は、まったく同じ真理である。わたしたちはただ主の再臨が近づいているため、はるかにもっと熱心にメッセージを伝えるべきである。[19]

わたしたちは、すべての力を尽くして、周囲の人々に光を照らす決心をしよう。わたしたちは、悲しむべきではなく、快活であるべきである。そして常に主イエスをわたしたちの目の前で見ている必要がある。[20]

わたしたちは、長い間、救い主が来られることを待ち望んできた。しかし、そのみ約束は、確かである。わたしたちは、まもなく約束された家郷にいるようになる。そこでイエスは、神の御座から流れる小川のかたわらにわたしたちを導き、地上においてわたしたちが通った暗いみ摂理について説明されるであろう。それは、わたしたちの品性を完成させるためであった。そこでわたしたちは、回復されたエデンの曇りのない美しい光景を見ることになる。贖い主の足もとにこのお方がわたしたちの頭においてくださった冠を投げ捨て、黄金の竪琴を引くとき、わたしたちは全天を御座に座しておられる主への賛美で満たすのである。[21]

参照文献:

1. 教会への証5巻14
2. 各時代の大争闘下巻*418, 419*
3. 教会への証5, pp. 14, 15.
4. 伝道220.
5. 初代文集*205, 206*
6. 人類のあけぼの下巻*128*
7. 伝道220
8. 教会への証6巻408
9. 同上4巻306
10. 初代文集*130*
11. 教会への証8巻252, 253
12. 各時代の大争闘下巻*69*〔筆者強調〕
13. 教会への証8巻252
14. クリスチャン教育の基礎335, 336
15. 教会への証8巻22, 23
16. 同上253
17. 同上9巻104−107〔強調付加〕
18. 初代文集*209, 210*
19. 伝道219
20. 教会への証8巻253
21. 同上254

2021 年 12 月 4 日安息日

今は夜のなんどきですか？

トーマス・ナント著

[全体を通じて強調が付加されている。]

「夜回りよ、今は夜のなんどきですか。夜回りよ、今は夜のなんどきですか。」。夜回りは次のように答えた。「朝がきます、夜もまたきます。もしあなたがたが聞こうと思うならば聞きなさい」（イザヤ 21:11、最後の部分、12）。

この聖句は今、わたしたちにどのように当てはまるでしょうか。

弟子たちが復活したキリストが昇天なさるのを見ていたとき、貴重なみ約束が与えられました。「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」(使徒行伝 1:11)。これこそ、わたしたちが待ち望んでいる出来事です。この約束を大きな文字で書いて、すべての人に読まれ理解されるようにしよう。「キリストの再臨の希望は、すべての歴史を解き明かし、また将来のすべての教訓を説明する鍵である。」[1]

「真の夜回りの声は、今、至る所で聞かれる必要がある。『朝がきます、夜もまたきます』。わたしたちは、主の準備の大いなる日にいるため、ラッパはたしかな音を出す必要がある。」[2]

主の準備の大いなる日に、神に選ばれたわたしたちは、天の宮に入るために、何をすることが求められているでしょうか。「**民は皆、主の命令を守らなければならない**」(歴代志下 23:6)。

質問をされた夜回りは、次のように答えました。「『朝が来ます、夜もまた来ます』…朝と夜がともに近づいている。それは、義人には、永遠の昼の開始であり、悪人には、永遠の夜の幕が下ろされる。」[3] 人類の堕落以降、外の闇に対して、福音が光でした。暗闇が全世界を覆っており、特に、希望のメッセージを信じない人々にとってそうです。「もしわたしたちの福音がおおわれているなら、滅びる者どもにとっておおわれているのである。彼らの場合、この世の神が不信の者たちの思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光の福音の輝きを、見えなくしているのである」（コリント第二 4:3, 4）。

主の時計

主の時計を守る者としてわたしたちは、主の偉大な時計の秒針、分針、時針を確認したうえで、眠っている人々の目を覚ますために、ラッパでたしかな音を鳴らす必要があります。わたしたちは、夜回りとして時計を正確に読み、今、わたしたちが夜におけるどの時間帯にいるのを把握する必要があります。そのうえで、わたしたちは、人々が主の偉大な日のための準備ができるようにするために、正しい時に、ラッパのたしかな音を鳴らす必要があります。

まず、わたしたちは、どれくらい見張りの時間があるのかを知る必要があります。働きの期間と見張りの時間におい

て、祈りの呼吸は霊的な命とまっすぐ歩くためのエネルギーのために重要不可欠です。「一日には十二時間あるではないか。昼間あるけば、人はつまずくことはない。この世の光を見ているからである」（ヨハネ 11:9）。マタイ 20:1-14 のたとえ話によると、キリストは、働く時間帯である 12 時間を的確に分割し、11 時間めの最後の一時間をその日の時間を完成するための働きとして残しておられました。また夜の時間帯もありますが、ユダヤ人は、この時間帯を 3 つに分類していました。

次の特別な祝福に注目してください。「主人が帰ってきたとき、目を覚しているのを見られる僕たちは、さいわいである。よく言っておく。主人が帯をしめて僕たちを食卓につかせ、進み寄って給仕をしてくれるであろう。主人が**夜中ごろ（第二の時間帯）**、あるいは**夜明けごろ（第三の時間帯）**に帰ってきても、そうしているのを見られるなら、その人たちはさいわいである。このことを、わきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、自分の家に押し入らせはしないであろう」（ルカ 12:37−39）。

時を知る

夜回りが「今は夜のなんどきですか。」という質問を受けたとき、彼は、次のように答えました。「朝がきます、夜もまたきます」。イザヤは、古代バビロンの滅亡とユダヤ人の奴隷生活からの解放を預言しました。イザヤの預言において、夜回りは、彼が見た事を宣言するように求められています。これに答えて、彼は近づいている軍隊を述べています。その後、次のような声が聞かれました。「倒れた、バビロンは倒れた、神々の像はことごとく打ち砕かれて地に伏した」。（イザヤ 21:9）。 夜回りは、ユダヤ人の解放が近づいており、ユダヤ人の捕虜たちにとっては、輝かしい朝が待っているということを確信しました。それと同時に、ユダヤ人の苦難を喜んできた人々にとっては、恐ろしい破滅の夜となるのでした。夜回りは、来たる破滅のしるしを見るために起きていたという事実によって、ラッパでたしかな音を鳴らすことができました。「朝がきます、夜もまたきます。」という聖句は、わたしたちにとって重要な教訓です。

わたしたちは、ラッパによってたしかな音を出すために、生存している時に目を覚ましていなければなりません。アドベンチスト運動の先駆者たちは、最初、1844 年の春にキリストが来られると期待していました。彼らは、大きな希望を抱きながら、ラッパでたしかな音を鳴らしました。彼らは、見張り、待ちましたが、最初に期待していた時が過ぎ去ったとき、非常に落胆しました。彼らは落胆したものの、新たに見張りました。新たに神のみ言葉を研究することによって勇気を得、近い将来におけるキリストの再臨を否定し、この主題に関する議論を止めてしまった教会は、倒れたということを確信しました。第二天使のメッセージである「バビロンは倒れた」は、そのような教会にあてはまりました。このメッセージには夜中の叫びが伴い、そのメッセージは、10 人の乙女の譬の中で与えられた言葉そのものによって伝えられました。「さあ、花婿だ、迎えに出なさい」。

何万人もの信仰者たちが反応しました。彼らは、堕落した諸教会を離れて、キリストの再臨の時期に関する二回目の期待を抱いて待ちました。しかし、悲しいことに、その信徒の群れは自分たちの見張りに忠実であったにもかかわらず、再び、失望しました。それにもかかわらず、アドベンチストの信仰者たちは、その数は非常に減少したものの、再度、自分たちの見張りを新たにしました。彼らの更なる神のみ言葉の研究の結果により判明したのは、1844 年 10 月 22 日に、イエスは地上に来られたのではなく、天の聖所の第一の部屋を出られて、至聖所に入られ、そこで地上に来られるに先立つ最後の贖罪の働きを始められたということでした。これが、第三天使のメッセージの光であり、この世に与えられた最後のメッセージでした。このことを悟り、彼らはラッパによってたしかな音を出し続けるべきでした。彼らは今、夜における第三にして最後の時間帯と考えられているところに生存していました。だれでも彼らの生存しているメッセージや時間の重要性について疑問を抱く人がいれば、主の使者は、イエスによる次の指示を、彼らに思い起こさせるのでした。「だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわとりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。」。わたしたちは、朝を運んでくだ

さる主が来臨されるのを待ち、見張っています。さもなければ突然来られて、わたしたちが眠っている所を見出されるでしょう。

ここで言及されているのは、どの時でしょうか。人々が眠っているのを見出すのは、キリストが雲の上に乗って現れるときではありません。そうではないのです。それはキリストが、天の至聖所におけるとりなしの働きを終了し、祭司の服を脱ぎ、報復の衣を身に着け、次の命令が出される時です。「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」。」[4]

神は、その憐れみにより、わたしたちに光を提供してくださっていますが、それは、わたしたちが暗闇に取り残されることなく、むしろしるしを認めて自分たちが生存している時間帯を理解するためです。「あなたがたはみな光の子であり、昼の子なのである。わたしたちは、夜の者でもやみの者でもない。だから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして慎んでいよう。」(テサロニケ第一5:5, 6)。

神の民として今日、イエスの再臨の時期は、わたしたちがはじめ信じた時よりも近づいているため、わたしたちはまた自らを第三にして最後の見張りだとみなすことができます。そうであるならば、わたしたちは、警戒を引き下げてよいでしょうか。

主の使者は、次のように説明しています。「わたしたちは、過去に見張りに次ぐ見張りがあったことを見た。このために、警戒心が不足してもよいだろうか。決してそうではない！はるかに大きな間断なき警戒の必要がある。なぜなら、最初の見張りの時よりも、今の方が残されている時間が短いからである。現在では、わたしたちが主を待つ時間は、必然的に最初よりも短くなっている。もし、わたしたちが、そのときに衰えることのない警戒心をもって見張っていたとすれば、どれほど２回目の見張りにおいては二倍の注意力を必要としていることであろう。２回目が過ぎ去ったため、今は３回目に入ったが、注意力を衰えさせることに言い訳はない。**３回目の見張りは、３倍の注意力を必要とする。**」[5]。

このような試練の時代においては、どのような品性が表されるべきでしょうか。「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。」（黙示録14:12）。

「忍耐を失うということは、これまでわたしたちが熱心に、継続的に見張りを失うことである。夜の暗闇の長さは、試練である。しかし、朝が延ばされているのは憐れみである。なぜなら、もし主人が今、来られるならば、非常に多くの人々が準備できていないところを見出されることになるからである。遅れている理由は、神がご自分の民が滅びることを望まれないことにある。しかし、信仰深い人々に対する朝、不信心な人々に対する夜は、わたしたちの間近に迫っている。神の人々は、待ち、見張ることによって、神の民は自分たちの特徴的な品性、世からの分離を表すべきである。わたしたちの見張る立場によって、この地上では旅人であり寄留者であることを示すべきである。この世を愛する人々と、キリストを愛する人々との違いは、あまりにも明白であって間違えようがない。世俗的な人々は、地上の財産を獲得することに非常に熱心で野心的であるが、神の民は、この世に同化せず、熱心に見張り、待つ立場によって、自分たちが変えられていることを示す。彼らの住居は、地上にあるのではなく、より素晴らしい国、天にあることを示すのである。」[6]

特別な祝福

なぜ、２回目と３回目の時に見張っていることを見出されている人々に祝福が宣言されているのでしょうか。マタイ 25 章の 10 人のおとめに関するたとえ話によりますと、目覚めよとの叫びは真夜中になされています。この叫びは、神の民をその眠りから呼び覚ます召しでした。そして信仰によって、おとめたちは、イエスと共に至聖所に入りました。すべてのおとめたちはまどろんでいましたが、思慮の深いおとめたちは緊急事態のために用意をしていました。彼女たちは、延びている間に、自分たちのともしびの芯を切りそろえ、燃え続けさせてきました。そして彼らの信仰は神のみ言葉にとどまっていました。これらの信徒たちは、第三メッセージの下で、忠実に耐え続け、見張り、待ち、主の来臨のために働いていました。ヨハネはこの群れの間に第三天使の信仰のうちに死んだ人々を見ています。「またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、

『**今から後、主にあって死ぬ死人はさいわいである**』」。御霊も言う、「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく」。」（黙示録 14:13）。なぜ、この特別の祝福が宣言されたのでしょうか。その答えは、最後の時間帯のもとで経験する彼らの体験に関係しています。

マラキ 3:1,2 は、第三天使のメッセージが始まる時に関する預言です。

「見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる」（マラキ 3:1,2）。

たちまちその宮に来られることは、1844年に、イエスが天の宮における至聖所に入られたときに起こりました。その時から、このお方は何をしておられるのでしょうか。

「彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる」（マラキ3:3）。

旧約聖書の時代においては、レビの子孫たちは、主の宮で主の奉仕に献身していました。今日、すべての教会員たちは、主に仕えるように召されています。神の民は、霊的なイスラエルとして、第三天使のメッセージの光を全世界に伝えるべきです。この光は、天の聖所におけるイエスの最後のみ働きについての真理を明らかにします。そこでイエスは、ご自分の民が義をもって、ささげ物を主にささげることができるように、ご自分の民から不純物を取り除くために「銀をふきわけて清める者」として座しておられます。この義は、神の民の中に完全に再現されるキリストの品性です。ゼカリヤは、精錬の過程に耐えるイスラエルの人々について次のように書いています。

「主は言われる、全地の人の三分の二は断たれて死に、三分の一は生き残る。わたしはこの**三分の一を火の中に入れ**、銀をふき分けるように、これをふき分け、金を精錬するように、これを精錬する。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは『彼らはわが民である』と言い、彼らは『主はわが神である』と言う」」（ゼカリヤ 13:8,9）。

どこでレビ人の子孫を見いだすでしょうか。彼らの働きはどのようなものでしょうか。「**レビびとである祭司たちが**、あなたがたの神、**主の契約の箱をかきあげる**のを見るならば、あなたがたはその所を出立して、そのあとに従わなければならない。」（ヨシュア 3:3）。レビ人の子供たちは、十戒が入っている契約の箱をかきあげる人々でした。

どこに契約の箱を見いだすでしょうか。「また第二の幕の後に、別の場所があり、それは至聖所と呼ばれた。そこには金の香壇と全面金でおおわれた契約の箱とが置かれ、その中にはマナのはいっている金のつぼと、芽を出したアロンのつえと、契約の石板とが入れてあり」（ヘブル 9:3,4）。契約の箱は、聖所における二番目の部屋である至聖所にありました。

今日におけるレビの子孫とは、罪深い心をイエスに明け渡すこと、また聖霊による改心させる力を通して、心と思いに神の律法を記され、それを自分たちの生活において担っている人々です。これが、義をもって、ささげ物を主にささげるという意味です。

第三天使のメッセージの信仰のうちに死んだ人々は、大胆に信仰によって、イエスと共に至聖所に入ったのでした。彼らは、この世が安息日を踏みにじって神の律法を無効にした時代に、安息日を守りました。その結果として、彼らは、イエスが来られる時に、特別、祝福されるのです。

「第三天使のメッセージを信じて死んだ者はみな、栄化されて墓から現われ、神がご自分の律法を守った者たちと結ばれる平和の契約を聞くのである。」[7]

キリストの再臨の前に死に、生き残っていた聖徒たちが味わうような危険に耐えることはありませんでしたが、彼らは、最後の見張りの瞬間に加わるためによみがえり、契約の祝福を受け、イエスが来られるのを見ます。イエスが戻られる前に、墓が開かれます。「また地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう。」（ダニエル 12:2）。

わたしたちは、偽物の夜回りか、本物か？

「シオンの城壁の上の見張り人たちは、救い主の来臨の知らせを最初に認め、最初に声を上げてその近いことを宣言し、人々に、その来臨のための準備をするよう最初に警告を発すべきであった。しかし、彼らは、安易な気持ちで平穏無事の夢をむさぼっていた。そして人々は、罪の中で眠っていた。イエスは彼の教会が、葉ばかり数多く茂っているが、尊い実のなっていない、実のないいちじくの木のような状態であるのを見られた。宗教の形式は遵守してそれを誇っていたが、真の謙遜、悔い改め、信仰の精神は欠けていた。実はこれらだけが、神に喜ばれる礼拝であったのである。聖霊の実の代わりに、高慢、形式主義、虚栄、利己心、圧迫などが現れていた。背信した教会は、時のしるしに対して目を閉じてしまった。神は、彼らを捨てたり、誠実を曲げたりなさらなかった。しかし、彼らは神から離れ、神の愛から離反したのである。彼らが条件に従うことを拒んだときに、神の約束は、彼らに果たされなかったのである。」[8]

だれに対してみ約束は成就するでしょうか。主は次のように言われます。「エルサレムよ、わたしは**あなたの城壁の上に見張人**をおいて、**昼も夜もたえず、もだすことのない**ようにしよう。主に思い出されることを求める者よ、**みずから休んでは（黙っていては）ならない**。」（イザヤ 62:6）。4 人の天使達は、四方からの風が吹くことを許すようになると、患難が次々のわたしたちに襲いかかるようになる。しかし、地上における偉大な人は、次のように述べている。「平和がないのに『平和』と言い。」（エゼキエル 13:10）。

わたしたちのための偉大な見張り人であるお方は、御父のみ座で、まだ印されていない残りの民のために、深い憐れみの声で次のように嘆願し、叫んでおられます。「わたしの血、父よ、わたしの血、わたしの血、わたしの血」。わたしたちは、シオンの城壁の上の見張り人として、わたしたちは「声をあげ」るべきではないでしょうか。もしくは、わたしたちは次の人々のうちにいるのでしょうか。「見張人らはみな目しいで、知ることがなく、みな、おしの犬で、ほえることができない。みな夢みる者、伏している者、まどろむことを好む者だ」（イザヤ 56:10）。

大いなる責任

わたしたちが地に臨む主の剣を見るとき、任命された見張り人としてわたしたちは、何をすべきでしょうか。「人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家のために見守る者とした。あなたは**わたしの口から言葉を聞くたびに、わたしに代って彼らを戒めなさい**」（エゼキエル 3:17）。

もし、わたしたちがラッパによってたしかな音を鳴らさないならば、どのような警告を受けるでしょうか。特に、教会の見張り人には、どのような厳粛な責任があるでしょう。

「魂は誘惑の下に倒れる危険のうちにある。もし神の牧師たちが自分たちの任務を忠実に果たさないならば、彼らは滅びてしまうのである。もし何かの理由で、彼らの霊的感覚が麻痺して、危険を認めることができず、警告を発しないために人々が滅びるならば、神は、失われた人々の血の責任を、彼らの手にお求めになる。」[9]

「それゆえ、人の子よ、わたしはあなたを立てて、イスラエルの家を見守る者とする。あなたはわたしの口から言葉を聞き、わたしに代って彼らを戒めよ。わたしが悪人に向かって、悪人よ、あなたは必ず死ぬと言う時、あなたが悪人を戒めて、その道から離れさせるように語らなかったら、悪人は自分の罪によって死ぬ。しかしわたしはその血を、あなたの手に求める。」（エゼキエル33:7,8）。

「**このメッセージは、かつてなかったほど今の時代の方が強くあてはまる。**ますます世は神のご要求を無効にしている。人々は、違反において大胆になっている。この世の住民たちの悪は、ほとんど升目を満たしている。」[10]

兄弟姉妹よ、他の人々の救いが、悪人に自分の道から立ち返るようにと与えられる警告にかかっていると考えることは厳粛なことです。わたしたちは、預言者イザヤによってわたしたちに与えられた預言によって、警告や励ましを響かせることにおいて、わたしたちの声を一つにし、わたしたちの目と目を合わせようではありませんか。「聞けよ、あなたの見張びとは声をあげて、共に喜び歌っている。彼らは目と目と相合わせて、主がシオンに帰られるのを見るからだ」（イザヤ 52:8）。

手段としての文書配布

「**教会員よ、われわれの文書配布の重要性に目覚め、この仕事にもっと時間を捧げなさい**。いくつかの部門における福音を宣べ伝えるパンフレット、トラクト、書籍を人々の家庭に配りなさい。むだにする時間はない。多くの教会員は文書伝道の働きに自発的に、献身的に奉仕し、こうして非常に必要とされている警告を与える助力をしなければならない。」[11]

わたしたちのための目覚ましコール

主のための見張り人である「聖なる者」（歴代志下23:6）として、わたしたちは、眠っているでしょうか、起きているでしょうか。

「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りから**さめるべき時**が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。そして、宴楽と泥酔、淫乱と好色、争いとねたみを捨てて、昼歩くように、つつましく歩こうではないか。あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない」（ローマ13:11−14）。

「 **みわざはすみやかに終結しようとしている**。そして、至る所で不法がはびこっている。われわれには働くときがわずかしかない。われわれは霊的な眠りから目覚め、われわれの持っているもの、われわれ自身のすべてを、主に捧げよう。聖霊は真の伝道者と共に住み、奉仕に必要な力を与えるであろう。」[12]

わたしの兄弟姉妹仲間の皆さん、わたしたちに与えられている時間は、限られています。神のみ働きは速やかに閉じようとしており、悪は至る所で増加しています。わたしたちは、何をしているでしょうか。わたしたちは、まだ、眠っているのでしょうか。

聖霊を受けた者はだれでもそれを表すようになる。なぜなら、彼はすべての力をもっとも活動的な奉仕に用いるからである。信仰によって実際にキリストを受け入れる者はみな働く。彼らは人々に責任を感じる。神は今、**真理の知識を持っている者**、聖なる真理の受託者にことごとく、**起きて、他の人々に天の光を伝えよ**と命じておられる。

目覚めよ、兄弟がたよ。あなた自身のために、目覚めよ。キリストの恵みなくしてあなたは何もすることができない。できるうちに働きなさい。」[13]

今日、「今は夜のなんどきですか。」と質問を受けたとき、わたしたちの答えは、「もしあなたがたが聞こうと思うならば聞きなさい、また来なさい」であるべきです。そして主の見張りを続けるのです。世はほとんど終わろうとしています！

参照文献

1. 伝道220
2. 主は来られる15
3. 各時代の大争闘下巻*409*
4. 教会への証2巻190
5. 同上193
6. 同上194
7. 各時代の大争闘下巻*415*
8. 各時代の大争闘上巻405
9. 患難から栄光へ下巻*42*
10. 教会への証7巻140, 141
11. クリスチャンの奉仕*211*
12. 同上112
13. 同上112, 113

2021 年 12 月 5 日日曜日

敵の戦術を見極める

ドリン・ブルカ著

キリストの再臨が近づくにつれ、サタンの働きは頂点に達しようとしています。啓示者ヨハネは、サタンは、自分に残された時間が短いことを知って、大いなる怒りを抱きながら、地上に下って来ることを警告しています。「望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい」（黙示録12:12）。

ある人は次のように言うでしょう。「わたしに、敵はいません。全ての人と平安を保っています」。このような発言は、本当にキリストに従っている人に当てはまるでしょうか。イエスは、この世がイエスを憎み、迫害したように、この世は、イエスの弟子たちを憎み、迫害すると説明なさいました。キリストが言われたことによりますと、義のうちを歩む人々は、反対と拒絶に直面します。彼らは、時に、嘲笑され、あざけられ、誤解され、誘惑され、挑まれます。なぜなら、敵は、常に彼らのあとを追っているからです。注意していなさい！キリストの大敵が眠ったり、休暇を取っている、あるいは神の民がある種の休憩を取っているなどと一瞬たりとも考えてはなりません。敵は、あらゆる手段で働きます。

マタイ13:24, 25において、キリストは譬を語り、説明なさいました。

「天国は、良い種を自分の畑にまいておいた人のようなものである。人々が眠っている間に敵がきて、麦の中に毒麦をまいて立ち去った。」。敵はどのように働くでしょうか。

サタンの戦術

1．サタンは偽り者であり、偽りの父である

嘘をつき、だますという戦術は、サタンがはじめから用いてきた戦術です。この戦術が古びてはいないということを、わたしたちははっきり理解していなければなりません。この手段は、人々を騙すため、毎日、毎瞬間、用いられています。大欺瞞者は、ある人々に、ビッグ・バンの理論を告げます。他の人々には再臨のために準備をするにはまだ時間があると告げます。更に他の人々には、第七日目の安息日以外のどの日でも守ることができると告げます。キリストは、パリサイ人たち、および彼らの時代における支配者達を譴責されたとき、サタンの性質を明らかになさいました。「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。」(ヨハネ8:44)。地上における最初の欺瞞の例は、へびのかたちをとったサタンがエバに創世記 3:1, 4 にあるとおりに語ったときであったことがわかります。彼は、彼女に対して死ぬことはない、むしろ神のようになると言いました。

彼は、騙す広範囲な働きの一部として、しるしや奇跡を用います。

2. しるしと奇跡

「不法の者が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と」（テサロニケ第二 2:9）。

イエスは終わりの時代に、悪魔は偽キリストたちや、偽預言者たちを通して、できれば選民をも惑わそうとして、自分の力を表すであろうと述べておられます。マタイ 24:24 参照

3. サタンは、人々が罪を犯すように誘惑する

ユダヤの荒野において、サタンは、キリストに罪を犯させるために、誘惑しました。その試みは、キリストによってくじかれましたが、彼はキリストに従う人々に対してあきらめませんでした。彼は、あらゆる時代において、神の民を誘惑するという同じ働きを継続してきました。使徒パウロはこの光景を見て、次のように述べました。「ただ恐れるのは、エバがへびの悪巧みで誘惑されたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する純情と貞操とを失いはしないかということである」（コリント第二 11:3）。

4. **サタンは病気ややまいを引き起こす**

サタンによって 18 年間、病気を患っていた女性についてイエスは述べておられます（ルカ 13:16）。他の例は、ヨブです。サタンは「ヨブを撃ち、その足の裏から頭の頂まで、いやな腫物をもって彼を悩ました」（ヨブ 2:7）と書かれています。

5. サタンは殺人者である

イエスは、わたしたちに豊かないのちを得させるために、地上に来られました。サタンは、いつでもできるときは命を滅ぼすためにやってきます。サタンは、カインをかりたて彼の兄弟を殺させました。「カインのようになってはいけない。彼は悪しき者から出て、その兄弟を殺したのである。なぜ兄弟を殺したのか。彼のわざが悪く、その兄弟のわざは正しかったからである」（ヨハネ第一 3:12）。

6. **サタンは、告発者である**

「われらの兄弟らを訴える者、夜昼われらの神のみまえで彼らを訴える者は、投げ落された」（黙示録 12:10）。

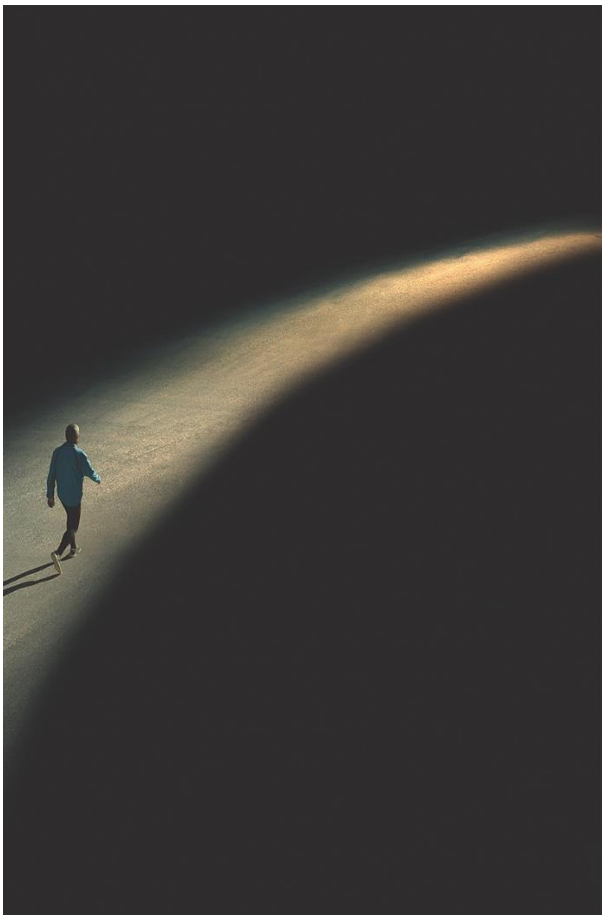
この世における心配事

キリストの再臨を待ち望んでいる多くの人々のあいだに、明日についての心配があります。敵の戦術の一つは、この世の事柄によって彼らを忙しくすることです。こうして、彼らは朽ちないもののためにはほとんど時間を使いません。

マタイ6:25において、イエスは次のように述べておられます。「それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか」（マタイ 6:25）。

主の使者は、次のように述べています。

「わたしは、サタンが彼の天使たちに命じて、キリストの再臨を待望し、神の戒めをみな守っている人々を陥れるために、特にわなを仕掛けるのを見た。サタンは彼の天使たちに、諸教会は眠っているといった。サタンは、彼の力と偽りの奇跡を大いに行なって、彼らをとらえておくことができるのである。彼は言った。『しかし、われわれは、安息日を守る一派を憎む。彼らは常に、われわれに反抗し、われわれの民を奪って行って、憎むべき神の戒めを守らせる。行って、土地や金銭を持っている人々をこのようの思い煩いで夢中にさせよ。もし彼らの思いを土地や金銭に執着させることができれば、われわれは、まだ彼らをとらえることができる。**彼らには言いたいことを言わせておけばよい。ただ、キリストの天国が勝利をおさめ、われわれの憎む真理が広がることよりも、もっと金銭を愛するようにさせよ。**彼らの前に、この世をもっとも魅力的に見せて、彼らがそれを愛し、偶像化するようにさせよ。われわれは、われわれが管理できるだけの財産を、みなわれわれの陣営の中に保っておかなければならない。キリストの弟子たちが、神の奉仕のために財産を捧げれば捧げるほど、彼らはわれわれの民を奪って、われわれの王国に損害を与える。彼らが



いろいろのところで集会を開くとき、われわれは危険にさらされている。その時は、大いに警戒せよ。できれば、騒ぎと混乱を起こせ。互いの愛を失わせよ。彼らの牧師たちを失望落胆させよ。なぜなら、われわれは彼らを憎んでいるからだ。財産を持っている人々には、それを出させないように、あらゆる口実を設けよ。できれば、金銭の関係点を手中に収めて、牧師たちを欠乏と苦難に陥れよ。そうすれば、彼らの勇気と熱心が衰えるだろう。どんな小さい領土でも戦いとれ。貪欲と地上の宝に対する愛を、彼らの品性の主な特質とせよ。このような性質が優勢である限り、救いと恵みは、後に引きさがっている。彼らの回りにあらゆる誘惑を設けよ。そうすれば、彼らは間違いなく、われわれのものである。

そして、ただ彼らを手に入れるだけでなく、彼らの憎むべき感化によって、他の人々が天国に導かれることもなくなるのである。もしだれかが、捧げようとするならば、わずかしか捧げないように、物惜しみする気持ちを起こさせよ。」[1]

敵は、安息日を守る人々を憎んでおり、また彼は、彼らが神の真理について熱心になり献身的なときに、心配します。彼は、この使命が少しでも前進することを阻止しようとしており、もし彼がそうできれば、神の民をめぐる戦いに勝利しているのです。ですから、わたしたちには次の二つの選択肢があります。

1. 真理のうちに押し進み、福音を世に宣べ伝える、もしくは
2. 口先では真理を公言するが、実際には朽ちる事柄についてもっと案じ、わたしたちの心がキリストと一つではないことを表す – またはキリストを完全に否定する。

以上のうち、一つだけが、選ぶ価値のあるものです。

つかの間の楽しみ

多くの人は次のように考えます。「わたしの人生は一回きりだ。わたしは人生を精一杯楽しみたい。わたしは、食べて、飲んで、楽しんで、喜びたい。」。人類の歴史の最後の時代において、主に会うための準備をしている人々はどうでしょうか。わたしたちは、つかの間の楽しみを探しているのでしょうか。または、より高い、高貴な目標、すなわち、つかの間ではなく、永遠にわたって続く何かを持っているでしょうか。常に思いが神にとどまっていたエノクのようになりましょう。

「わたしたちは、永遠の命を求めているだろうか。そうであるならば、この世の喜びから離れる必要がある。」[2]

神は、神の民が、この世において喜びと幸福を得ることに反対してはおられません。問題は、楽しみが、わたしたちの思いを創造主からそらし、気を散らし、力を奪い、この世の事柄の奴隷となってしまうことです。

「自己のことを考えていると、心は力と命の源であるキリストから離れていく。そして、悪魔は、人の「心を救い主からそらそうと絶えず努力して、キリストとの一致と交わり妨げようとするのである。世の快楽、生活上の心配事、悩み、悲しみ、他人の欠点、または、自分の欠点や不完全さ、こうしたものの全部、またはそのどれかにわたしたちの心をひこうと、悪魔は必死になっている。」[3]

準備を怠る

試験において成功するか否かは、準備時間に重要なかぎがあります。多くの学生たちは、その準備を怠りま

す。彼らは、準備を後回しにし、試験の前日になって初めて全ての準備をしようとしますが、もし、長期にわたって準備をしていたならば、より効果的だったことでしょう。イエスの再臨を待ち望む人々にも同様の傾向が見られます。彼らは、準備をしようとせず、日曜休業令が発令されるまで、準備をしようとしません。その時は、手遅れなのです。今こそが準備をすべき時です！

「テストの時がすべての人におとずれる。わたしたちは、神のテストと試験の下で、みずからのどのようにふるまうだろうか。…わたしたちは個人個人品性を形成しなければならない。**わたしたち一人一人は、品性を形成する必要がある．．．永遠の事柄のための準備を怠り、死ぬ瞬間まで、神との和解を延ばすことは、危険である。**」[4]

敵は、わたしたちを誘惑し、霊的な準備を怠るよう誘惑します。彼は、彼らが若いときに、次のように述べます。「あなたは若い。人生を楽しみなさい。遊びなさい。仕事での成功を目指しなさい。その後、あなたが結婚したときに、あなたの人生をイエスに捧げることができる」。彼らが結婚したとき、彼は次のように述べます。「あなたは忙しすぎる。あなたは二つの仕事をもっており、育てるべき子供がいて、その子供を嫁がせる必要がある。その後、あなたは引退したときに、そうすることができる」。人が年を取り、あるいは引退して、準備をするための最も良いタイミングだと考えるときに、悪魔は次のように述べます。「もはや手遅れである。あなたは、これまで、数えきれないほどの罪を犯してきた。神は、あなたを許すことはできない」。サタンが偽り者あることを覚えてください！準備は遅らせるべきではありません。「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、救の日にあなたを助けた」（コリント第二 6:2）。

批判および人を裁くこと

神のみ言葉は、この世の最後の時代において、わたしたちがどのような事柄に専念すべきかについて明白に示しています。わたしたちに宣布すべきメッセージがあり、また、この世にふりかかる事柄について警告を発する必要があります。わたしたちの敵は、時にわたしたちの注意をそのメッセージからそらし、また、わたしたちが他の人びとの動機や行動を批判するように仕向けることにおいて成功します。ここでわたしが言及しているのは、はっきりとした明白であからさまな罪ではありません。そのことに関しては、どのように対処すべきか具体的な指示があります。しかし、もし人々が単なる憶測に基づいて他の人々を推測し、裁くとき、これは、わたしたちの焦点を、重要でないばかりでなく、実際わたしたちの霊的な健康のために危険である事柄に当て続けさせるサタンの戦略なのです。

「わたしたちは、神のいつくしみ深さを宣布し、人々の前に神の真のご品性をはっきりさせるために出ていくべきである。わたしたちは、神の栄光を反映するべきである。わたしたちは、かつてこれらを実践してきただろうか…

わたしたちは、自分の兄弟たちを裁いて、また彼らの言動を批判して過ごしてこなかったであろうか。そうであるなら、わたしたちの魂に神の愛が座を占めて来られなかったのである。わたしたちは、決定的な変化をなそう。」[5]

わたしたちが他の人々をどのように、また何において裁くか、神は常にわたしたちにテストしておられます。

「わたしたちが悪い習慣に関して攻撃することによって他の人々を改革しようとしても、ほとんど意味がない。そのような努力は、通常、良い結果よりもむしろ悪い結果をもたらす。」[6]。

「あなた方のあいだに、告発があってはならない。これは、敵の働きである。もし、彼がクリスチャンであると公言する人々を告発や非難に導くことができれば、サタンは、望み通りの奉仕を受けているのである。いかなる人も、嫉妬の感情に屈して、兄弟の手を弱めてはならない。そのとき、彼に委ねられた仕事が傷つくからである。」[7]。

わたしたちの敵は非常に狡猾である

「サタンは、わたしたちの唯一の力の源である神から魂を引き離すことができるや否や、人々の肉の性質のきよくない欲を引き起こそうとする。敵の働きは、突然ではない。それは最初は唐突な突発的なものではない。それはひそかに原則の砦を徐々にむしばむものである。」[8]。

「わたしたちは、立ち向かうべき狡猾な悪魔がいる！キリストのみが、サタンの力に力強く十分に対抗できる。そのため、わたしたちは、毎瞬間、キリストにいていただかなけれ

ばならない。わたしたちは、まどろんでおり、愚鈍であり、サタンの不用心な足のためにしかけられた巧妙な罠に気づかない。そのため、わたしたちは、すべての行動において神と一致するために、どのように歩むべきかを知る必要がある。このような場面では、自己が自ら主張するために入り込んではならない」[9]。

神話をあばく

サタンは、長年に渡り、自分が存在しないということを人々に信じ込ませようとしてきた。彼は、悪魔が角や尻尾を有しており、三つまたの武器をもっているというような風刺画、作り話を発案してきました。しかし、そのような神話は、わたしたちを油断させるためのものです

さらに、「サタンは、人々を欺き滅ぼすために全力で働き、世の終末が近づくにつれて、サタンは存在しないという考えを至る所に広めるのである。自分と自分のやり方とを隠すのが、サタンの手である。」[10]

「神がご自分の子供たちに、恵みと保護の約束をお与えになったということは、**当面すべき強力な悪の勢力**―無数の、断固たる、疲れを知らぬ勢力であって、その悪意と力について無知であったり無関心でいては、だれ一人安全ではありえない―があるからである。」[11]

「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」（エペソ6:12）

「**この大欺瞞者が最も恐れていることは、われわれが彼の策略を見破ることである。**」[12]

敵は、もし可能であれば選民をも惑わそうとすべての力と熟練をもって働いています。しかし、聖書は、神を砦とする人々のために、特別の防御を約束してきました。

わたしたちを囲む約束された垣根

わたしたちは、この戦いにおいて、一人ではありません。わたしたちは、防御を約束されています。そのため、サタンはキリストがヨブとヨブの家の周囲に**垣根**を張り巡らせたことについてキリストを非難しました。

「もしわれわれが、サタン以上の贖い主の力のうちに、隠れ家と救いを得ていないならば、サタンとその軍勢の力と悪意とに恐怖を抱くのは当然であろう。われわれは、錠をかけて家の戸締りをよくし、生命と財産を悪人の手から守ろうと気をつける。しかしわれわれは、常にわれわれに近づこうとしている悪天使のことは、ほとんど考えない。われわれはその攻撃に対して、自分では防御する方法がないのである。**もし許されるならば、彼らはわれわれの心を狂わせ、体に変調を起こさせて苦しめ、財産を破壊し、生命を奪うのである**。…しかし、キリストに従う者は、常に彼の保護のもとにあって安全である。力強い天使が天から送られて彼らを守る。**悪人たちは、神が神の民の回りに配置された警護を破ることができないのである。**」[13]

「キリストは、ご自分が代わって死なれた魂を決してお捨てにならない。人はキリストを離れ、試みに負けることもあろう。しかしキリストは、ご自分の命をもってその代償を払われた者からお離れになることはない。もし霊の目が開かれるならば、多くの魂が圧迫され悲嘆にくれて、ちょうど荷車が重い束を積まれて押しひしがれているように、死ぬばかりになっているのを見るであろう。わたしたちは、天使が、危機に瀕している、これらの試みられる者を助けるために、速やかに飛び交うのを見るであろう。」[14]

実際のところ、キリストとサタンの戦いにおいては、常にキリストが勝利してこられました。そのため、サタンは、吠えたけるししのように怒り、さまよい、獲物を探しています。わたしたちは、サタンの力を見くびってはなりません。ダニエル章 10 章においては、21 日におよぶ激しい霊的な戦いの一部を垣間見ることができる。神の天使に天使長ミカエルが加わりました。神をほめたたえよ。ミカエルが勝利をおさめられました！

キリストは悪魔に打ち勝たれた

キリストの地上生活全体にわたって、主は悪魔に、決してご自分が誘惑に負けたという機会をお与えになりませんでした。「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試錬に会われたのである。」（ヘブル 4:15）。

イエスの勝利は、わたしたちが罪と悪魔に打ち勝つこ

とができるということの保証です。イエスは、わたしたちの長兄であり、勝利をおさめるための道筋を備えてくださいました。また、イエスは、わたしたちの生活において力を授けてくださいます。

経路を知る

どんな冬季のプロのスキー競技でも、事前に滑るコースをチェックし、競技者たちが安全な経路から逸れてしまうことを防止するため最初のコースを作る人が必要です。それと同様に、霊的なレースにおいては、キリストがまず、最初に滑られました。キリストは、わたしたちが通ることができる安全な道を整備されました。その道においては、いくつかの丘やカーブ、危険な場所があるかもしれませんが、キリストはすでに、その道を通っておられるのです。

「そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。主ご自身、試錬を受けて苦しまれたからこそ、試錬の中にある者たちを助けることができるのである」（ヘブル 2:17,18）。

わたしたちは勝利をおさめることができる

「イエスは、サタンに対し、勝利できるかを示す模範を与えて下さった。神のみ子は、無限の代価を払って、敵の働きを無効にするために、この世に来られた。このお方は人間という代理人が、神なる代理人と協力できるようにすることによって、罪を滅ぼし、義をもたらすために、来られた。このお方は神のみ言葉の側に立場を取られた。『こう書かれている』というのがイエスが敵に立ち向かい、撃退された武器であった。」[15]

「誘惑される全ての魂のために、キリストのうちに完全にして完璧な助けがある。あらゆる道に危険が取り囲んでいるが、全宇宙が防御をしており、人々が耐えられないほどの誘惑に直面することはない。」[16]

結論

「敵の働き…最初は小事―神に対して真実であることやこのお方だけに頼ることを怠ること、教会の書物の数を増すために世の要求に譲歩する傾向―から始まる。しかし、まもなく、群れの羊飼いの立場と神のみ言葉の率直な真理との間に、広い深淵ができる。わたしたちにとっての唯一の安全策は、聖書をさぐり、神の前に多くひざまずき、このお方の霊を吹き込んでくださるように嘆願することである。これにより、敵が洪水のように押し寄せるとき、主の御霊はわたしたちのために、彼に対して旗を掲げて下さる。」[17]

神の子らは、サタンの戦術の巧妙さに精通しています。しかし、それが彼らの主たる焦点ではありません。主を待ち望み、主の再臨を早めようと奮闘する忠実な人々は、暗闇にいる魂を救うためにあらゆる努力、時間、精力を注ぐべきです。あなたは、神の王国を前進させるための準備ができているでしょうか。あなたは、キリストのみ事業のために、地上の快適さを放棄する用意があるでしょうか。これらの事柄こそ、わたしたちが熟考する必要のあることです。わたしたちが心を尽くしてキリストに従うことを選ぶとき、主は、ご自分のみ働きを成し遂げるための意志と力を与えてくださいます。アーメン！

参照文献:

1. 初代文集432, 433〔強調付加〕
2. 勝利者キリスト65
3. キリストへの道90
4. ﾚﾋﾞｭｰ･ｱﾝﾄﾞ･ﾍﾗﾙﾄﾞ1895年9月17日〔強調付加〕
5. 信仰と行い61
6. 節制132
7. ﾊﾟｼﾌｨｯｸ･ﾕﾆｵﾝ･ﾘｺｰﾀﾞｰ1903年1月15日
8. わたしたちの父が顧みて下さる182
9. この日を神と共に171
10. 各時代の大争闘下巻258
11. 同上253, 254〔強調付加〕
12. 同上253, 254〔強調付加〕
13. 同上258, 259〔強調付加〕
14. 祝福の山148, 149
15. ｻｲﾝｽﾞ･ｵﾌﾞ･ｻﾞ･ﾀｲﾑｽﾞ1899年12月13日
16. 今日のわたしの生涯316
17. ﾚﾋﾞｭｰ･ｱﾝﾄﾞ･ﾍﾗﾙﾄﾞ1884年8月12日

2021 年 12 月 8 日水曜日

ノアの時代のように

ナサレノ・トゥルシマ著

主は、人類の状態を見て悲しみで満たされました。その状態は、このお方の心を痛めました。しかし、なぜでしょうか？なぜ、主は、洪水によって地上を破壊されたのでしょうか。ノアの時代は、現代のわたしたちの時代と、どのような関係にあるでしょうか。「そして、ノアの時にあったように、人の子の時にも同様なことが起るであろう。ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅ぼした」（ルカ 17:26, 27)。

洪水前の時代

「洪水によって旧世界が滅びる前、優れた技能と知識を備えた才能ある人々がいた。しかし、彼らは、自分たちの計画と会議から神を除外したために、その思いはかることが腐敗した。彼らは神が一度も命じられなかったことをずる賢く行い、巧みに悪を行った。」[1]

人類は、非常に速い速度で増え広がり、それと同様に悪も広がりました。わずか、10 世代に至る前において、「主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた。．．．時に世は神の前に乱れて、暴虐が地に満ちた」(創世記 6:5, 11)。

その光景は、完全に堕落を表していました。人類の中に、良い点は一つもありませんでした。彼らの心は、完全に汚染され、「悪い思い、すなわち、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹り」ばかりでした(マタイ 15:19)。彼らは「故意に」神のみ言葉を無視したため、洪水の中でおぼれ死にました。

彼らの過ちは何であったのか？なぜ、このような事態が生じたのか？

「洪水前の人々の罪は、それ自体合法的なものをゆがめることにあった。彼らは神の賜物を自らの利己的な願望のために用いることによって、それを汚した。食欲の道楽と卑しい情欲が、彼らの心の目を全く曇らせた。洪水前の人々は、サタンによって導かれ支配される奴隷であった。」[2]

飲食

「神は洪水前の人々が、飲み食いすることを非難されたのではなかった。神は、彼らの体の必要を満たすために、地の産物を豊富にお与えになったのである。彼らの罪は、与え主であられる神に感謝せずに、これらの賜物を受け、何の抑制もなく食欲を満たして、堕落したことであった。」[3]

「ノアの時代の住民は、ゆがめられた食欲にふけることによって腐敗したために滅ぼされた。」[4]

「彼らは、動物を殺すことを愛した。彼らは、動物を食物と

して用いた。これにより、彼らの凶暴性や暴力性が増加した。その結果、人を殺すことについて抵抗感がなくなった。」[5]

とつぎ、めとり

「彼らが結婚することは正当なことであった。結婚は、神が制定されたものである。これは、神が定められた最初の制度の一つであった。神は、この儀式に特別の指示を与えそれを神聖で美しいものとされた。しかし、人々は、こうした指示を忘れ、結婚を悪用して情欲を満たすものにした。」[6]

この神聖な制度を堕落させたのは、不均衡なくびきでした。セツの忠実な息子たちは、悲しむべきことに、道徳的な指針を失い、カインの不信心な娘たちの美しさに心を奪われました。彼らは、彼女たちの美点ではなく、ただ美貌のために妻として選びました。

「神の子らが人の子らと交わることにより、彼らは堕落し、彼らと雑婚することにより、彼らの妻たちの影響を通して、彼ら固有の特別な聖なる品性を失い、カインの子らの偶像礼拝において一致した。多くの人々は、神に対する恐れを失い、神の律法を踏みにじった。」[7]

一夫多妻制が導入されることにより、男たちは妻の数を増やし、それによって悪事と悲劇が増加しました。

「結婚の制度をゆがめ、結婚の義務を弱め、神聖さを減じることはサタンの研究の成果であった。サタンは、これにより確実に人のうちにある神のかたちを汚し、また悲劇と悪への扉を開くことはできなかった。」[8]

悪い連れ合い

古いことわざに次のようなものがあります。「あなたがどのような人々と共にいるかを告げるなら、わたしはあなたがどのような人かと告げよう」。「まちがってはいけない。『悪い交わりは、良いならわしをそこなう』。」(コリント第一 15:33)。ノアの時代の多くの人々の悲劇は、このように真理を知り、受け入れていた人々が、悪い仲間を選ぶことによって道徳的な指針を失ったことにより生じました。彼らは、救われることを望むことすらしなくなったため、彼らは滅びました。

「ノアが箱舟を作り始めたときに神を信じていた人々は、不信心な人々と交わることにより信仰を失い、娯楽や見せびらかしに心を奪われた。」[9]

「洪水前の人々は、猶予の期間が終わろうとしていたとき、刺激的娯楽や祭りに熱中していた。勢力と権力を持った者は、人々の心を陥落と快楽に夢中にさせておいて、最後の厳粛な警告にだれも心を動かすことがないように仕向けていた。」[10]

欺瞞と混乱

「ノアの時代の人々の大多数は、真理に反対し、偽りの衣に心を奪われていた。地上は暴力によって満たされ。戦争、犯罪、殺人が日々、発生していた。キリストの再臨の直前においても、同じような状態になる。」[11]

現在の実際の状況

「今日、キリストに従うと公言し、その名が立派な教会員名簿に記されている者が、飲酒家と飲み食いしている。不節制が道徳的、また霊的能力を鈍らせて、いやしい情欲にふけらせるに至る。情欲を制することが、自分たちの道徳的責任であることを感じない者が非常に多い。彼らは、情欲の奴隷になる。人々は感覚の快楽を求めて生き、

この世界と現世のためだけに生きる。」[12]

暴飲暴食

「今日の罪は、飲食における不摂生によって特徴づけられており、神はいつまでもこれを容認なさることはしない。人々は合法的なことを過度に行い、人類全体が神が確立された律法に違反した結果、苦しんでいる。」[13]
糖尿病、骨粗しょう症、大腸がん、肥満、高血圧、痛風、虫歯、動脈硬化およびその他の病気は、社会を揺るがしていますが、これらの主要な原因は、不摂生です。研究結果によりますと、5 人のうち 1 人の死因は、栄養失調です。その原因は、過度の塩分、砂糖、肉食、および全粒穀物や果実を十分にとっていないことです。

不道徳

多くのクリスチャンは、あえて不均衡なくびきを負い、それによって、多くの後悔や苦い体験がもたらされました。神のご計画に従った結婚の数は減少し、他方で離婚数、同性婚は上昇しています。同性婚は、30 の国々で認められています。社会は、制約や責任を嫌っており、不道徳が日常的なものとなっています。

「世の状態について恐ろしい光景がわたしの前に示された。不道徳が至る所に多く行われている。淫蕩（いんとう）は現代独特の罪である。今日ほど悪がかくまで厚かましくその醜い頭をもたげ時代はない。人々は無感覚になっているようであり、徳と真の善良さを愛する者たちは、悪の厚かましさと力と優勢さにほとんど気をくじかれている。」[14]

道徳の原則が失われていますが、その原因は、クリスチャンたちが悪い仲間を選んでいることです。これにより、わたしたちは、キリストを見失っています。わたしたちは、この世の慣習や快楽の流れに乗って行動しており、そのため、大いに自分の魂を失う危険を冒しています。

暴力とテロリズム

今日、罪によって堕落した人類はテロリズムを犯しています。世界のあらゆる場所において、多数のテロリストたちは、人類に対して脅威をもたらしています。テロリストによる攻撃は日々、記録されています。ある信仰団体では、他の宗教的団体のメンバーをできるだけ殺害することが容認されるようになっています。道徳的な制約が消滅しつつあります。

過去 90 年の戦争において殺された人の数は、過去 500 年間において殺された数よりも多くいます。20 世紀だけで、2 億 300 万人の人々が戦争により殺されたと推定されています。その中には、200 万人の子どもたちが含まれており、また 4 ～ 5 百人が身体障害を被っています。「セーブ・ザ・チルドレンという団体によりますと、十万人以上の赤ん坊たちが戦争によって殺されています。7,300 万人の赤ん坊が堕胎されています。預言どおり、暴力は悪化しています（ホセア 4:1-3 参照）。

不正直、詐欺、破産、暴力、流血がいたるところで発生しています。未亡人や孤児たちは、全てを奪われています。ゲーム、競馬、あらゆる娯楽が人々の思いを支配しています。このような悪事や残酷さが増加することにより、神がその権威を行使せざるをえなくなります。近い将来、世の中の悪事は頂点に達し、ノアの時代のように、神が裁きを下すことになります。

世を警告するためにつかわされた

神は、大洪水の前に、この世に対して警告を与えるためにノアをつかわされました。その目的は、人々に悔い改めさせ、破滅を回避させることでした。それと同様に、キリストの再臨の前に、主はご自分の僕をつかわし、偉大な出来事の準備に関する警告を命じておられます。非常に多くの人々が神の律法を犯しており、主は大いなる憐れみをもって、人々に聖なる原則を守るよう呼びかけておられます。罪から離れ、キリストの信仰を通じて悔い改めた人々に対しては、許しが提供されています。しかし、ノアの時代と同様、信仰深い人々は、今日、嘲笑されています。

「ノアの時代、古い世界は、義の説教者の迷信的な恐れであり前兆だと呼んだものをあざ笑った。彼は、空想的な人物、狂信者、人騒がせな者として非難された。」[15]

「知識をもっていた偉大な人々は、〔ノア〕が述べていたような洪水はこれまでに発生したことがなく、今後も発生しないと断言した。」[16]

「120 年間、〔主は〕ご自分の僕ノアを通して、彼らに警告を送られた。しかし彼らは、慈悲深く与えられた猶予期間を、ノアを嘲笑することに用いた。彼らはノアを風刺的に描いて批判した。彼らは、神が必ず実行すると言われたさばきについて、ノアが非常に熱心であることを嘲笑した。彼らは科学や自然を支配している法則を持ち出したそれからノアの言葉に騒ぎ立て、彼を気違い呼ばわりした。」17

ノアが箱舟に入った後も、嘲笑はますます増していきました。7日間にわたり、人々は箱舟を取り囲み、あざ笑い、侮辱をするための暴力的な発言をしていました。今日、ノアの時代のように、クリスチャンおよびキリストご自身は、嘲笑と冒涜の対象となっています。より悪いことに罪を正当化するために、イエスの人生に関する誤った話が、映画やテレビで放送されています。使徒は次のように述べています。「まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し、『主の来臨の約束はどうなったのか』。」(ペテロ第二3:3, 4)。

「主の僕たちは、熱烈な〔狂信者〕と呼ばれる。牧師たちは、人々に彼らの警告を聞くべきでないと警告する。人々が聞こうが、差し控えようが、神の霊がノアに対してメッセージを伝えるべきことを命じていた間、ノアは、それと同様の扱いを受けた。」[18]

「ノアの時代と同様、人々は、今日の厳粛な警告のメッセージを拒絶する。彼らは、出来事を予告し、決まった時間を定める偽教師たちに言及し、彼らは彼らの警告と同様、わたしたちの警告も信じないと言うであろう。現代の世の中はこのような状況である。不信心が蔓延しており、キリストの再臨に関する教えはあざけられ、嘲笑されている。このような状況であるからこそ、真理を信じる人々は、なおさら、自分たちの行いにおいて信仰を表す必要がある。彼らは、自分が信じると公言する真理によって清められるべきである。」[19]

「もしクリスチャンが目標に向かって前進しようとするなら、あざけりと嘲笑のただ中でそれをしなければならない。彼は砂漠の中のなつめやしの木のようにまっすぐ立たねばならない。」[20]

神聖な良心

ノアの信仰と働きは一体となっていました。老若男女によってあざけられていたにもかかわらず、箱舟の建設は進められました。彼らに与えられた最後のしるし―人と動物のために持ち込まれた備え―を見たとき、浮かれ騒ぎ、お祭り騒ぎ、あざけりはますます増加しました…食欲や低俗な肉の娯楽を満足させることによってゆがめられた。彼らは、神が自分たちを買われたことを否定し、良心は感じないものになった。」[21]

もはや恩恵期間はない

「7日間の終わりに、雲が集まり始めた。これは新しい光景であった。なぜなら、人々は一度も雲を見たことがなかったからである。それ以前においては、雨が降ったことがなかった。地上は、霧によって潤されていた。ますます雲は濃くなっていき、まもなく、雨が降り始めた。しかし、その後もなお人々は警戒するようなものではないと考えようとした。しかし、その後、あたかも天の窓が開かれたかのように見えた。なぜなら、激しい流れとなって雨が降り始めたからである。しばらくして地上は雨によっておおわれた。その後、雨の量が増加しはじめ、日に日に、水かさは高くなっていった。毎朝、雨がなおも降り続けるのを見て、彼らは絶望のうちに顔を見合わせた。そして毎晩彼らは「まだ降っている」との言葉を繰り返した。朝晩、そのような状態であった。

40 日間に渡り、雨は降り続けた。水が彼らの家の中に入り込み、人々を自分たちが偶像礼拝のために建てた宮へと駆り立てた。しかし、宮は流された。地球の地殻が破壊され、その中に隠されていた水が怒涛のようにあふれ出た。」[22]

義人も悪人も、地上において死ぬ運命にある者として自分たちの生活を継続することでしょう。彼らは、まき、建て、飲み、食いすることでしょう。だれも天の聖所において最後の審判が下されているということに気がつきません。ノアの時代、箱舟の外で暮らしていた人々は、自由気ままに生活し、来るべき審判をあざ笑っていました。神の子が再臨するときも、同じことが起きるのです。

「真夜中の盗人のように静かに、人に気づかれずに、

すべての人の運命が定まる決定的な時、罪人に対する恵みの招きが最終的に取り去られる時がやって来る。」[23]

「わたしたちは、現在の機会を最大限に活かすべきである。天のための準備をするための恩恵期間は、二度と与えられない。これこそ、主がご自分の戒めに従順なすべての人のために用意してこられた将来の家にふさわしいものとなる品性を形成する唯一にして最後の機会なのである。」[24]

偽りの悔い改めが繰り返される

「暴風雨が激しくなるにつれて、樹木、建物、岩石、土などが四方八方に飛び散った。人間と動物の恐怖のさまは、表現することができなかった。暴風雨のとどろきを越えて、神の権威を軽視した人々の嘆きの声が聞こえた。…この恐怖の時に、彼らは神の律法に違反したことが自分たちの滅亡の原因であることを悟った。しかし、彼らは刑罰を恐れて罪を認めたとはいえ、真に悔い改め、悪を嫌ったのではなかった。もし、刑罰が取り除かれたならば、彼らは、またもや神に反逆したことであろう。同様に、この世界が火で滅ぼされる前に地下にくだる刑罰の時に、悔い改めない者は自分たちの罪の招待を知り、それが神のきよい律法を軽視した罪であることを知るのである。しかしながら、古代の罪人と同様に、彼らは真に悔い改めるのではないのである。」[25]

悪事ゆえにこの世は再び破壊される

「古い昔に天が存在し、地は神の言によって、水がもとになり、また、水によって成ったのであるが、その時の世界は、御言により水でおおわれて滅んでしまった。しかし、今の天と地とは、同じ御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである…しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。」(ペテロ第二 3:5–7, 10)。

弱ることの危険

「目を覚まして待つことにうみ疲れ、世俗の魅力に心を向ける人々の状態は、実に危険である。実業家が利益の追及に心を奪われ、快楽の愛好家が楽しみにふけり、流行を追う女性が身を飾っているその時に、全地の審判者が、『あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた』という宣言をなさるかもしれないのである。」[26]

ノアの時代における３種類の人々

大洪水の前に死んだ信仰深い人々
背信した人々（警告をまったく無視した人々）
救われた忠実な人々

「120 年間、ノアは世への警告のメッセージを宣言した。しかし、悔い改めたのはわずかであった。彼が箱舟を製造することにおいて雇用した大工たちがメッセージを信じたが、彼らは洪水の前に死んだ。他にもノアによって改心した人たちがいたが、逆戻りした。」27

「最初、多くの者は、警告を受け入れたように思われた。しかし、彼らは、真に悔い改めて神に立ち返ったのではなかった。彼らは、罪を捨てようとはしなかったのである。…彼らは、一般の不信仰に負け、ついに、以前の仲間と一緒になって、厳粛なメッセージを退けた。ある者は、深く感動して、警告の言葉に聞き従おうとした。しかし、嘲り笑う者が多いために、ついに彼らと同調して、恵みの招待を拒み、やがてだれよりも大胆不敵に嘲笑する者になった。というのは、一度光を与えられながら、罪を示す神の霊に逆らった者ほど、無謀で、罪の深みに沈む者はないからである。」28

今日の神の呼びかけ

ノアは、義の先駆けとも言うべき種類の信者であり、主の目の前に恵みを得ました。「しかし、ノアは主の前に恵みを得た。…ノアはその時代の人々の中で正しく、かつ全き人であった。ノアは神とともに歩んだ」（創世記6:8, 9）。
「信仰によって、ノアはまだ見ていない事がらについて御告げを受け、恐れかしこみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった」(ヘブル11:7）。
ノアは、自分自身の力によってクリスチャンとしての品性に

到達したわけではありませんでした。それは、イエスの恵みによってであり、このお方を信じる信仰によって、自分の当時の状況に焦点をあてることによってではなく、むしろ、妨げられることのない自分の救い主とのつながりを維持することに焦点をあてることによってでした。

今日の状況は圧倒されるようなものですが、わたしたちは自分の救い主イエスのうちに、すべて―安全、助け、平安―を見いだすことができます。イエスは、わたしたちのあらゆる疑いを払しょくしてくださいます。イエスは、わたしたちのすべての希望を保証してくださるお方であり、また嵐からの避難所です。

この旅路における仲間の皆さん、わたしたちは、まだ地上の活動の影と混乱のなかを手探りしています。しかし、わたしたちの救い主がまもなく来られ、救いと休息を与えてくださいます。わたしたちは、主の手によって描写されたとおりに、祝福された向こう側を信仰によって考えましょう。まもなく戦いが終わり、勝利が得られます。わたしたちは、近い将来、わたしたちの永遠の希望であるお方を見ることになります。そのお方のご臨在においては、今の世の中の苦労はとるに足らないものです。

「見上げよ、見上げよ、絶えず信仰を増し加えよ。この信仰に導かれて、都の門を通って大いなる将来へとつづく狭い道を行こう。それは贖われた者のために備えられた広く限りない輝かしい将来である。」[29]

参照文献:

1. SDAﾊﾞｲﾌﾞﾙ･ｺﾒﾝﾀﾘ[E･G･ﾎﾜｲﾄ･ｺﾒﾝﾄ]1巻1090
2. 同上
3. 人類のあけぼの上巻101
4. SDAﾊﾞｲﾌﾞﾙ･ｺﾒﾝﾀﾘ[E･G･ﾎﾜｲﾄ･ｺﾒﾝﾄ]1巻1090
5. 争闘と勇気36
6. 人類のあけぼの上巻101
7. 争闘と勇気36
8. 同上
9. ﾚﾋﾞｭｰ･ｱﾝﾄﾞ･ﾍﾗﾙﾄﾞ1904年9月15日
10. 人類のあけぼの上巻103
11. 原稿ﾘﾘｰｽ19巻247
12. 人類のあけぼの上巻101
13. 争闘と勇気35
14. アドベンチスト・ホーム368
15. 教会への証4巻308
16. イエスの物語181
17. SDAﾊﾞｲﾌﾞﾙ･ｺﾒﾝﾀﾘ[E･G･ﾎﾜｲﾄ･ｺﾒﾝﾄ]1巻1090
18. 牧師への証233
19. 教会への証4巻308
20. SDAﾊﾞｲﾌﾞﾙ･ｺﾒﾝﾀﾘ[E･G･ﾎﾜｲﾄ･ｺﾒﾝﾄ]3巻1151
21. 原稿ﾘﾘｰｽ19巻387
22. ｻｲﾝｽﾞ･ｵﾌﾞ･ｻﾞ･ﾀｲﾑｽﾞ1901年4月10日
23. 各時代の大争闘下巻225
24. 終末の出来事236, 237
25. 人類のあけぼの上巻97, 98
26. 各時代の大争闘下巻226
27. SDAﾊﾞｲﾌﾞﾙ･ｺﾒﾝﾀﾘ[E･G･ﾎﾜｲﾄ･ｺﾒﾝﾄ]1巻1088
28. 人類のあけぼの上巻92
29. 国と指導者下巻334

2021 年 12 月 10 日金曜日

近代の欺瞞

ジオフレイ・カストロ著

フェイク・ニュース

フェイク・ニュースとは、危険な偽の情報の拡散をもたらす嘘のニュースです。フェイク・ニュースが発生するのは、客観的な真実が軽視される場合、または感情に訴えるための軽薄な働きかけが行われたり、世論を形成するための個人的な信条が重視されたりする場合です。

政治家たちは、度々、真っ赤な嘘をつくことによって真実を操作します－そのような政治的なメッセージにおいては、合理性よりも感情が重視されます。情報操作、半分の真実、より直接的に表現するとすれば、戦略的な嘘は、世の中の傾向に適合するための考え方を生み出し、また、情報操作をする人が敵視する人々の影響力を破壊します。

フェイク・ニュースの創始者

フェイク・ニュースや噂を拡散させる行為は、人類が創造される前から存在していました。天において反逆が発生したとき、サタンは、そのような武器を用いることによって神の統治に敵対しました。神は不正であり、神の律法は抑圧的であるとするサタンの巧妙かつ偽りの噂、また同様に、より良い統治の仕組みを作ることができるというほのめかしが天使たちの間に広まりました。「この争闘には、様々な要素が含まれていた…答えるべき質問は次であった。神の律法は不完全か、あるいは不朽か。神の統治は安定したものか、あるいは変更が必要か。神の都の中で生きている者たちだけでなく、天の全宇宙の住民の前で、この質問が答えられる必要があった。」[1]

その働きによる結果は、悲惨なものでした。その影響力は非常に大きかったため、その反逆は3分の1の天使をさらい、その結果、彼らは天から地上へ投げ落とされたのでした。「しかし、女は自分の場所である荒野に飛んで行くために、大きなわしの二つの翼を与えられた。そしてそこでへびからのがれて、一年、二年、また、半年の間、養われることになっていた。」(黙示録12:4)。

フェイク・ニュースが地上に伝えられる

サタンは、邪悪なほのめかし―サタンが聞いたとされる噂―をもって、エバに近づきました。「園にあるどの木からも取って食べるなと、ほんとうに神が言われたのですか」(創世記3:1下句)。サタンは、彼女を自分の蜘蛛の巣によって捉えた後、彼女にフェイク・ニュースを伝えた。「それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです。」（同5節）。フェイク・ニュースは感情に働きかけるということを覚えてください。こうして理性が抑えられ、個人は、これらの偽りの創始者の望むとおりに行動するよう操られてしまいます。サタンは、このような操作の達人なのです！

情報戦争

ゼカリヤの時代、ユダは、カルデヤ人の支配下にいました。ネブカデネザル王はエルサレムを制圧し、神の宮を壊し、神の宮の器まで奪い、バビロンへ持ち帰りました。このような悲劇は、神によって選ばれた人々の背信によって生じました。しかし、主は、彼らが悪の偶像礼拝から離れさせるという目的のために、その辛い経験をお用いになりました。この回復の過程は、70年を要したのでした。

そのような状況において、エルサレムおよび国全体において、情報戦争が発生しました。神は、彼らを悪から離れさせるために、70年間バビロンのくびきを負うことになるという明確なメッセージを与えました。しかし、サタンは、偽預言者を利用することによって、反対のメッセージを伝えました。そのメッセージの目的は、神の民の良心を麻痺させることであり、その内容は、悔い改めと改革をしなくても、速やかにエルサレムが回復されるというものであり、彼らの希望と一致する内容でした。エレミヤ27:16,17において、わたしたちは、この本当のニュースとフェイク・ニュースの戦いを確認することができます。

「わたしはまた祭司とこのすべての民とに語って言った、『主はこう仰せられる、「見よ、主の宮の器は今、すみやかに、バビロンから返されてくる」とあなたがたに預言する預言者の言葉を聞いてはならない。それは、彼らがあなたがたに預言していることは偽りであるからだ。彼らのいうことを聞いてはならない。バビロンの王に仕え、そして生きなさい。どうしてこの町が荒れ地となってよかろうか」。

サタンは、フェイク・ニュースの扇動者であり、天から提示された真理を無効にするために、彼の支配下にある者たちを巧みに利用します。偽預言者であるハナニヤは、神の宮において現れ、祭司およびあらゆる人々の前で次のようなメッセージを伝えました。「万軍の主、イスラエルの神はこう仰せられる、わたしはバビロンの王のくびきを砕いた。二年の内に、バビロンの王ネブカデネザルが、この所から取ってバビロンに携えて行った主の宮の器を、皆この所に帰らせる。わたしはまたユダの王エホヤキムの子エコニヤと、バビロンに行ったユダのすべての捕われ人をこの所に帰らせる。それは、わたしがバビロンの王のくびきを、砕くからであると主は言われる」(エレミヤ28:2−4)。

ここに、いくつかのフェイク・ニュースの特徴があります。

出来るだけ多くの注目を集めようとする。

真実であるかのような装いで、出来るだけ、真実のニュースを模倣する（その起源、形式、重要性等）。

その後、イスラエルの人々は、彼らの感情を満たす嘘の話によって誘惑され、その結果、真理を拒み、真の悔い改めを求めなくなりました。その結果、天の宮の器が奪われ、神の宮は火によって焼き尽くされました。「五月十日に、――それはバビロンの王ネブカデレザルの世の十九年であった――バビロンの王に仕える侍衛の長ネブザラダンはエルサレムに、はいって、主の宮と王の宮殿を焼き、エルサレムのすべての家を焼いた。彼は大きな家をみな焼きはらった。また侍衛の長と共にいたカルデヤびとの軍勢は、エルサレムの周囲の城壁をみな取りこわした。 そして侍衛の長ネブザラダンは民のうちの最も貧しい者、若干、そのほか町のうちに残った者、およびバビロンの王にくだった人、その他工匠たちを捕え移した」(エレミヤ 52:12−15)。

キリストの時代における情報戦争

地上におけるイエスのみ働きは、奇跡としるしに満ちていたため、その噂はたちまち広がりました。イエスが通る場所には群衆が群がりました。彼らは、イエスの言葉を注意深く聞き、偉大な奇跡を見た後、その奇跡を家族や近隣の人々に伝えました。

そのような現実をみたサタンは、黙ってはいませんでした。彼は、フェイク・ニュースや嘘の噂を広め始めました。その目的は、キリストの力強い救いのみ働きを阻止するか、少なくとも妨害することでした。最初の噂は、キリストの生まれを中傷するためにパリサイ人たちが述べたものでした。

「イエスは、ユダヤ人がアブラハムの子であることを否定された。『あなたがたは、あなたがたの父のわざを行っている』とイエスは言われた。彼らは嘲笑して、『わたしたちは、不品行の結果うまれた者ではない。わたしたちにはひとりの父がある。それは神である。』この言葉は、イエスの生まれについての事情をそれとなくさしていて、イエスを信じ始めた人たちのいる前で、キリストに打撃を与えるつもりで言われたのであった。イエスは、この卑劣な当てこすりに注意を払わなかった。」[2]

他のフェイク・ニュースは、イエスがベルゼブルに捕らえられているというものでした。すなわち、それによってイエスが悪魔を追い出しているというのでした（マルコ3:22）。その他のフェイク・ニュースは、イエスが大食漢の酔っ払いで、悪い仲間と共にいるというものでした（ルカ11:19）。

キリストの復活についてさえ、敵は、フェイク・ニュースを流すことにより、素晴らしい出来事を捻じ曲げようとしました。

「女たちが行っている間に、番人のうちのある人々が都に帰って、いっさいの出来事を祭司長たちに話した。祭司長たちは長老たちと集まって協議をこらし、兵卒たちにたくさんの金を与えて言った、

『「弟子たちが夜中にきて、われわれの寝ている間に彼を盗んだ』と言え。万一このことが総督の耳にはいっても、われわれが総督に説いて、あなたがたに迷惑が掛からないようにしよう』

。そこで、彼らは金を受け取って、教えられたとおりにした。そしてこの話は、今日に至るまでユダヤ人の間にひろまっている。」（マタイ28:11−15）。悲しむべきことに、このようなフェイク・ニュースは、今日、かつては神によって選ばれた人々の間においても広まっています！

デジタル・プラットフォームにおいて用いられている計算式は、個々のユーザーの好みに最も一致する情報を提供します。その計算式は、厳選された情報を処理することにより、情報提供者ができるだけ長い期間、ユーザーとつながるようにしています。わたしたちは、ソーシャル・ネットワークが常に改良されているということに留意する必要があります。ユーザーは、必ずしも自分に必要な情報を受け取るわけではなく、世の中で広く拡散している情報を受け取ります。ユーザーは、多くの人々が見ている情報が正しいと信じる傾向があります。そのため、嘘の情報をウイルスのように拡散させることにより、世論が操作されます。そのような嘘の情報の拡散は、異なった考え方を持つ人々同士を対立させるという作用も持っています。なぜならだれでもすでに自分が持っている先入観と合うものだけを糧とすることにより、ますます自説を曲げなくなるからです。

フェイク・ニュースに直面するクリスチャン

わたしたちは、ソーシャル・ネットワークの普及により、消費者だけでなく情報の発信者になっており、その情報は瞬時に他の人々に影響を与えますが、そこには自分が属する会衆にいる人々も含まれます。このような状況は、クリスチャンに厳格な責任を負わせます。

情報の受け取り方

クリスチャンは、情報を受け取る時は、神のみ言葉というふるいによってフィルターをかけなくてはなりません。使徒パウロの助言は明白です。「すべてのものを識別して、良いものを守り」（テサロニケ第一5:21)、または、新国際訳によれば「全てをテストする」というものです。

クリスチャンは、インターネット上の情報に対して、まず、その情報の発信元と正確性を確認しないかぎり、信用することはできません。特に、その情報が宗教的な性質のものであればそうです。信者の確信が誤った方向へ導かれ、その人が破滅へと向かってしまう恐れがあります。「人が見て自分で正しいとする道があり、その終りはついに死にいたる道となるものがある」（箴言16:25)。この聖句をフェイク・ニュースについて読み替えるならば、次のようなものになります。すなわち、真実と思えるニュースが、実は混乱と霊的な死に至らせる嘘であるということが後に判明することがあるということです。実際のニュースだけでなく、今日の偽宗教団体による発行物は、危険な理論や原則を広めています。サタンは、信者たちの聖化を破壊するためにそのような情報を広めており、そのため、わたしたちは、情報を受け取る時は、常に、使徒パウロによる次の助言を思い起す必要があります。「こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく」(エペソ 4:14)。

「根も葉もない情報が重要な真理であるとして伝えられることがあり、実際ある人々によってそれらが試金石とされる。そのため、争闘が生み出され、人々の思いが現代の真理から引き離される。もし、男女が些細な事柄に没頭するならば、重要な問題が注意を払われずに放置されることをサタンは知っている。サタンは、重要でない些細な

主題を自ら考えようとする人々に、膨大な量の情報を提供する。」[3]

情報を生成する、もしくは広める

わたしたちは、情報を生成し、第三者へ広める場合には、偽証してはならない、という第９の戒めを心に留める必要があります（出エジプト記20:16）。この戒めは、次のような内容です。「あなたは偽りのうわさを言いふらしてはならない。あなたは悪人と手を携えて、悪意のある証人になってはならない」(出エジプト記23:1)。そのため、クリスチャンは、誤ったニュースを広めてはなりません。そのようなニュースは、伝えられた人の信用性を傷つけ、またわたしたちの団体の信用を害し、その結果、最終的には、イエスの純粋な福音を害し、この世を罪で満たしてしまいます。

「今日、多くの嘘が、真理として教えられている。わたしたちの兄弟のある人々は、わたしたちが裏付けできない見解を教えてきた。空想的な考え、ひずんだあるいは特異な聖書の解釈が入り込んでいる。これらの教えのいくつかは、今は一点一画にすぎないように見えるかもしれないが、その後、発展し、経験のない人々にとって罠となる。

わたしたちには断固として行うべき働きがある。わたしたちの敵がこの時代のための明確な真理の宣布からわたしたちをそらし、注意を空想的な考えに向けさせることがないようにしよう。」[4]

現在、地上では世界規模の病気が流行っており、また教会が揺るがされていますが、眠ったような状態にある伝道の働きを活性化させる必要があります。重要な事柄がキリストとサタンとの争闘の枠組みにおいて正確に吟味されていないため、空想的な考えが広められるという問題が発生し、厳粛な現代の真理を宣べ伝えるための時間が奪われています。そのような例としては、日曜休業令の発令日を特定しようとすることや、カトリック教会の公文書に没頭すること等です。そのような種類の情報は、教会の使命をなすものでしょうか。この種の事柄を人々に伝える必要があるでしょうか。

「もし、あなたが、何を教えるかについて何か疑問が生じたり、考えるべき主題に関して疑問が生じたら、まっすぐに偉大な教師であるお方のところへ行き、このお方の指示に従いなさい。…

『先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか』(ルカ 10:25)という問いから、何ものあなたの注意を引き離すことを許してはならない。これは、わたしたちの生死にかかわる問題であり、永遠のために決着すべき問題である。思いが自分たちの持っている厳粛な真理の重要性の重みを受けるようにしよう。安っぽく重要でない理論を調べることによって思いがさまようことを許してしまう人は改心する必要がある。」[5]

「神は、人々が真面目に、かつ率直に考えることを望んでおられる。彼らは、高く、さらに高く段階にあがり、広く、さらに広い地平線を見渡すべきである。キリストを眺めて、彼らはキリストのみ姿に変えられなければならない。彼らは、深い永遠の天の真理を探るために時間を使うべきである。そのとき、彼らの宗教的な体験においては、軽薄なものが何もなくなる。神のみ言葉の偉大な真理を学ぶとき、彼らは見えない方を見るように忍ぶのである。彼らは最も引き上げる高尚な真理が、もっともあらゆる真理の源であるお方に緊密につながっている真理であることを認める。そして彼らがこのお方を学ぶほど、彼らの動機と同情は堅固で変わらないものとなる。なぜなら、ことごとく賢明なお方によって与えられる印象は、実質的であり、永続的だからである。キリストがお与えになる水は、短時間だけ流れ、すぐに枯れてしまう湧き水のようなものではない。生ける水は、永遠の命へと湧き上がる。」[6]

人々を目覚めさせようとする願いのうちに、わたしたちは間違った空想的な考え方を提示しひろめるという過ちを犯す可能性があります。更に、自分の言葉に力を与えるために、聖書的なメッセージを強引に通すところまでいく可能性があります。これらの行動は間違っており、真理を広めることに貢献することはありません。これらは一瞬の興味を引き付けるだけであり、逆に人々の心を頑なにさせ、未経験な魂にとってつまずきの石となります。

キリストをその純潔さのままに伝え、キリストについて考えるように人々を招き、救いのご計画を明確に伝え、彼らが、恐怖心をもつのではなく、「愛によって働く信仰」をもつようにすべきです。これが、わたしたちにとっての緊急の任務で

す。

「わたしたちは、明らかにされた神のご意思に従おう。そのとき、わたしたちは、自分の受けた光が、あらゆる真の光の源なる神聖なお方から来ることを知ることができる。キリストと協力する人々は安全な地にいる。神は彼らが世を堕落から救う働きに自分たちの精力を捧げるとき、彼らを豊かに祝福してくださる。キリストはわたしたちの模範であられる。眺めることによって、わたしたちはキリストのみ姿へと変えられ、栄光から栄光へ、また品性から品性へと変えられるべきである。これが、わたしたちの働きである。神は救い主を世に正しく表すためにわたしたちを助けて下さる。」[7]

真理の唯一の源であるお方

誤解を招くニュース、ブログ、偽の宗教的なビデオ、その他の情報が世の中に溢れています。インターネットを利用する人々は、これら全ての情報にアクセスすることができます。これらの情報は、サタンにとって友好的な手段であり、「果してそのとおりかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた」ベレヤの人々の模範に従わない不注意な人々を罠に陥れます(使徒行伝17:11)。

「わたしたちは、日々、聖書を調べる必要があり、これによりわたしたちは主の道を知ることができ、宗教的な偽りによって騙されなくなる。この世は、間違った理論や誘惑的な心霊的概念で溢れているが、これらは人々の霊的な識別力を破壊し、真理と聖潔から導きそらす傾向がある。今日、わたしたちは、特に次の警告に心を留める必要がある。『あなたがたは、だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない』（エペソ 5:6）。」[8]

わたしたちにとって唯一の確実な手段は、日々、祈りをもって聖書を学ぶことです。わたしたちの目をキリストから引き離す恐れがある偽の宗教のニュースや理論を避けるために、わたしたちは、「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ」(ヘブル 12:2)、神によって明らかにされたみ言葉のみに従う必要があります。

結論

ずっと以前に、地元の新聞が、大手銀行が偽手形を見抜く専門家を雇うと告知したことがありました。この機会を感謝して、ある若くて有能な人が、確実に採用されると思って現れました。彼は、採用面接において、偽造についてあらゆることを知っていると述べました。採用担当者は彼を見つめ、大胆に次のように断言しました。

「あなたは、私が必要としている人ではありません！」。

「なぜですか？」とその若い人は質問をした。

「偽手形は日々、新しいものが生まれます。」と採用担当者は答えました。「わたしたちが必要としているのは、本物の手形を完全に知っている人です。それにより、自信をもって偽手形を見分けることができるからです」。

だからこそ、わたしたちは、デジタル・メディアやソーシャル・メディアで流れているフェイク・ニュースや空想的な理論のために時間を使うべきではないのです。わたしたちにとって極めて重要なことは、聖書によって示されている神のみ言葉を学ぶために十分な時間を費やすことです。「また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」（ヨハネ8:32）。

「兄弟姉妹よ、神があなたとあなたがたの子供たちに与えてくださった真理を感謝し、研究しなさい。霊的な助けにつながらないことを探るために時間を費やしてはならない。「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」(ルカ10:25)。これが最も重要な質問である。これに対して明白に答えが与えられてきた。『律法にはなんと書いてあるか。あなたはどう読むか』。」[9]

天がわたしたちを守ってくださり、偽りの父によって作られたフェーク・ニュースによってわたしたちが罠にかけられることがないように、またわたしたちがフェーク・ニュースを創出したり、広めたりして、隣人に対するつまずきの石となりませんように。アーメン。

参照文献:
1. 勝利者キリスト289
2. 各時代の希望中巻257
3. ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1巻170
4. 同上169
5. 同上171
6. 同上172
7. 同上
8. 同上170
9. 同上174

2021 年 12 月 11 日安息日

待ち、そして早める

エリ・テノリオ著

かつてないほど近づいている

おそらく1844年の初頭に、再臨信徒が自分にとって大切な人を失うことは、今の時代ほど悲しく心いたむことではなかったことでしょう。

わたしたちは、今日、よみがえりの確証に慰められていますが、それがいつであるか正確な日は知りません。しかし、1844年に、すべての再臨信徒は、その年の10月22日に来られること、そのため、彼らは、そのときに墓で休んでいた人たちがよみがえり、会えると信じていました。故人について悲しんでいる人たちにとっては、なんと大きな慰めでしょう！

最も熱心な再臨信徒の先駆者であったチャールズ・フィッチは、そのキリストが来られると信じられていた日の８日前に亡くなりました。彼は当時、30歳と非常に若かったのですが、1844年10月14日に亡くなりました。その原因は、亡くなる前のとても寒い日にバプテスマを行ったことであったことが明らかでした。しかし、彼の妻と二人の子どもたちにとって、翌週の火曜日には再び彼と会えると信じることがどれほどの慰めであったか、わたしたちは想像することができます。

彼らは、その日を心待ちにしていたことでしょう！しかし、イエスは、10月22日には来られませんでした。ここでその妻と子どもたちの落胆はただ想像することができるばかりです。その火曜日、彼らは前週に泣かなかった分のすべての涙を流しつくしたことでしょう。

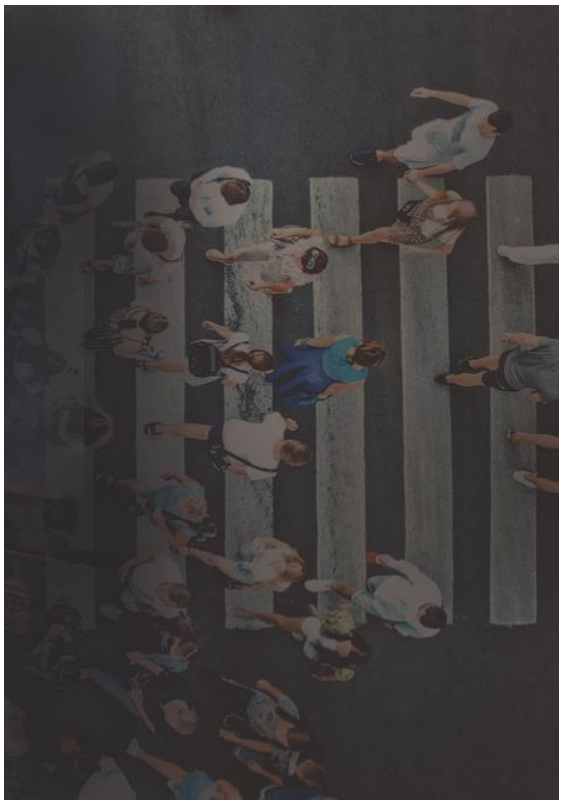
その時からおおよそ、２世紀が経過し、今は眠っているその母親と二人の子どもたちは、彼らの愛する夫、父親とまもなく再会するという特権を得ることでしょう。なぜなら、再臨信徒の先駆者たちは、1844年に起こる出来事（キリストは、地上に来られたのではなく天の至聖所に入られた）について誤解をしましたが、その預言は確かに成就し、また帰って来るというイエスの約束は堅実であり、かつてなかったほど近づいているからです。

「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである」（ヨハネ 4:1−3）。

この世の終末に関する預言は、これまでに実現してきており、また現在も実現し続けています。

ある日、弟子たちがキリストに近づいてきました。「またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、『どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか』。」(マタイ 24:3)。

イエスは次のように答えられました。「また、戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。．．．民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起



り、また地震があるであろう」（マタイ24:6, 7)。「その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう」(マルコ13:24, 25)。「また日と月と星とに、しるしが現れるであろう。そして、地上では、諸国民が悩み、海と大波とのとどろきにおじ惑い、人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである」(ルカ21:25, 26) 。「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」(マタイ24:14)。

以上のキリストが述べられたすべての預言は、すでに成就しており、また現在も成就し続けています、次のただ一つを除いて：「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために」とは、わたしたちが神の恵みによって果たすべき責任です。

また、聖書は、わたしたちがその日の到来を早めることができると告げています。「このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう」(ペテロ第二 3:12)。

どうすればキリストの再臨を早められるか？

A. 福音を宣べ伝える。

イエスの再臨を早めるための手段の一つは、福音を広める活動において、より多くの人々が関わることです。わたしたちは、この世の事柄の仕事をこなすだけでは十分ではありません。確かに、わたしたちは、自分の日常の必要性を満たすための仕事をする必要があります。しかし、それだけでは十分ではありません。わたしたちは、今日、キリストのために何を犠牲にしているでしょうか。

「わたしたちは、キリストのための兵卒である。キリストの軍隊に従軍している人々は、難しい仕事を行うことが期待されている。その仕事は、わたしたちが最大限に精力を注ぎこむべきである。兵卒の生活は激しい戦いの生活であり、辛抱と忍耐の生活であることを理解する必要がある。なぜなら、わたしたちはキリストのために、試練に耐えなければならないからである。わたしたちは、軍事演習に参加しているわけではない。」[1]

興味深いことに、ペテロ第二 3:14 には、わたしたちは福音を宣べ伝えることに関わることによって、平安（イエスのみが与えることができる本当の平安）のうちに、しみもきずもなく保たれるとあります。「愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい」。

B. 教会の活動に参加する。

祈祷会、キャンプ・ミーティング、若者の集会等に、出席者にとって祝福になろうとする意図をもって参加するというような単純なことが、わたしたちの周囲の生活に変化をもたらし、彼らをイエスへと導きます。

「あなたは、自分自身の中に引きこもっていながら、なおかつクリスチャンになることができるという考え方をもつべきではない。全ての人は、偉大な人類の一部を構成しており、あなたの体験の性格と質の大半は、あなたと共にいる人々の体験によって決定される…そうであるならば、わたしたちが皆で集まるという行為を放棄するべきではな

い。」[2]

C. 惜しみなく捧げる者になる。

わたしたちは献金において惜しみなく、また什一献金において誠実になるとき、福音宣布は促進されます。

「『あなたの宝物を天に蓄えなさい。』と主はあなたに言われる。『わたしの働きを前進させ、また新しい領域を広げるために、あなたが持っている手段を用いなさない。それにより現代の真理の光が全世界のいたる場所で輝く。』」[3]

D. イエスの福音に従って生きる。

わたしたちが、日常生活において、正直になり、忍耐強く、人々に優しく接することにより、他の人々に、わたしたちが来たるべき世界について真剣に考えているということを伝えることになり、またそのことが魂に、もっと主、およびわたしたちの希望について知りたいと思う動機を与えるようになります。「主は、わたしたちを主の兵卒として選ぶことにより、尊んでくださった。このお方のために勇敢に戦い、すべての取引において正しいことを維持しよう。万事につけ公正であることは、魂の戦いにおいて重要不可欠である。自分自身の傾向に対して勝利を得ようと奮闘するとき、このお方はご自分の聖霊によって、すべての行動において慎重になるよう、わたしたちを助けて下さる。こうしてあなたが敵に真理について悪を語るすきを与えないようにすることができるためである。」[4]

あなたは、憐れみ深く、寛大であり、イエスが実際にあなたの生活における現実であることを示しているでしょうか。こうして、あなたの周囲にいる人々が、神に栄光を帰すように導いているでしょうか。

「聖書には礼節が
命じられている。そこには真の礼節の特性である無我の精神と柔和な態度と人を引きつける性質について、多くの実例が与えられている。しかし、それらは
キリストのご品性の反映にすぎない。すべてのこの世における真の柔和と礼節は、キリストのみ名を認めない人々の間においてさえ、それはキリストから与えられるものである。キリストはそうした特性がご自分の子供たちに完全に反映するようにお望みになっている。世の人々が、わたしたちを通してキリストの美しさを認めるようにというのがキリストのみこころである。」[5]

あなたが本当にキリストの再臨を信じているということをあなたの友人や親せきに表すようなかたちで、安息日を守っているでしょうか。

あなたは、健康改革において前進し、それによって世に、あなたがより良い世界へ旅していることを、示しているでしょうか。

あなたは、あなたが神の子であることを他の人々がみとめるような服装を（聖書の原則に一致する趣味の良い服装）をしているでしょうか。

「心が正しければ言葉や服装や行為は正しくなる。」[6]

あなたは、あなたの兄弟姉妹とつながり、彼らおよび教会に関する良いことを語り、彼らを愛し、彼らのために祈り、その方法から、あなたと交わる人々は、あなたがイエスの弟子であることを見て取ることができるでしょうか。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」（ヨハネ13:35）。

イエスのそば近くにいるときにのみ可能である

イエスのみ言葉を研究し、祈ることによってイエスとの交わりをもつことによってのみ、あなたは、この世およびその習慣から離れる力を持つことができます。

「この世は、いと高きお方の娘、息子の高められることを知らない。彼らの周りにいる人々は、謙遜で、自己否定の精神、忍耐強い心の柔和に極めて高い価値があることを認めていない。彼らは、キリストが地上におられたときに、キリストを知りもしなければ、感謝もしなかった。そして僕は、主人にまさるものではない。彼らは、キリストを理解することができなかった。わたしたちが主の聖なるご品性に近づけば近づくほど、この世は、わたしたちのことをますます誤解するようになる。わたしたちがキリストや天と交わりを深めれば深めるほど、この世との交わりは少なくなる。なぜなら、わたしたちはこの世のものではなく、そのため、世はわたしたちを知らないからである。わたしたちの働きは、神の子と最も緊密なつながりを求め、このお方の学校で学び、柔和で心のへりくだった者となり、キリストのみ働きをなし、

このお方の王国を前進させ、再臨を早めることである。」[7]

「この世の子らの最大の野心は、世の標準に見合うことである。彼らは、天の神に仕えることによって得られる貴重な利点を認めることができない。しかし、光の子らは、自分の前に偉大な賞与を見ている。彼らは、キリストに奉仕することは、嘆かわしいことではなく、喜びで満ち溢れていることを見出す。このお方は『わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽い』と言われる。愛する者よ、もし神がそのようにわたしたちを愛してくださったのであれば、わたしたちも全力でこの方に仕え、狭い門から入れるように、このお方のみ言葉の一つ一つのご要求を満たしつつ奮闘すべきではないだろうか。わたしたちは、『耐え忍んで善を行』うことによって永遠の命および命の冠を得ようではないか。『彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする』。」[8]

わたしたちは、イエスの再臨においてイエスを受け入れる準備をすることにより、他の人々もまた準備ができるように導き、ひいては、再臨を早めることができます。

「救いのメッセージを拒絶している幾千のも人々は、キリストに従う人々の中にキリストの品性が反映しているのを見ることができれば、キリストを受け入れるであろう。

そうであれば、わたしたちの敵が、自分の最大限の力を用いてキリストの教会の中に不和、対立、衝突を生じさせようと努め、こうして彼らが世にキリストの栄光と品性を表すことができないようにしようとすることは驚くべきことであろうか。

今こそ、神の民は、日ごとの経験に、互いの熱烈な愛を持ちこむべきである。イエスの愛が心の中にやどるとき、その愛は、全ての行動に表れる。意見の相違は消え去る。なぜなら、もはや、自我が最高位を求めなくなるからである。こうして、教会は、明るく輝く光になることができる。そして天は見ていて、そこに一つの精神と一つの希望を持つからだが、偉大な一つの中心―キリスト―に近づいていることを見ることが出来るのである。」[9]

「 キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のために迎えるために、主は来られるのである。」[10]

サタンは、魂の人生ゲームを行っている

敵は、偽りの希望によって、多数の人々をだましています。しかし、わたしたちは、サタンの策略を無視して、この待ち時間に天に向かって上る必要があります。

「サタンは、大いなる力を伴って地上に下って来た。彼は、自分の最大限の力を用いて、多くの人の魂で人生ゲームを行っている。わたしたちは識別力、理解力を有した人々、物事を深く見て、健全な理性をもつ人々、よみがえられた救い主キリストと接触して生きている人々が必要である。あらゆる場所において偽りが存在するが、神のみ言葉は固い岩である。わたしたちは待つ時代にいる。わたしたちは神の日の到来を待ち望み、早めるべきである。天に向かって上って行き、つねに上っていく必要がある。」[11]

各国の指導者たちは、環境問題、健康問題、経済的問題に関する解決策を必死になって探そうとしています。しかし、この古い世界は、終末に向かって速やかに進んでいるように見えます。

わたしたちは、クリスチャンとして、良い管理者となり、わたしたちに委ねられたこの惑星を大切に扱うべきです。しかし、この惑星が人間ではなく神の手によって破壊され、再生されるということを忘れるわけにはいきません。

この地上では、かつてないほどの混乱のレベルにまですみやかに突き進んでいるという証拠が揃っているにもかかわらず、なぜ、人々は、平和と安全を実現することが出来るという幻覚をもつことができるのでしょうか。

なぜなら、大多数の人々は、この世の事柄に気を散らされて、この一時的な生活の先を見ることができないからです。ほとんどの人は勝ち取るべき天があるということを信じていないのです！

「世のすべてのものが激動している。時のしるしは険悪な兆候を示している。来たるべき事件が影を前方に投げている。神の御霊は地からひき上げつつあり、海と陸に次々と災害が起こっている。嵐、地震、火事、洪水、あらゆる種類の殺人が起こっている。だれが将来を読むことができよう。どこに安全があるだろう。人についても、この世についても、保証は何もない。人々は自分の選んだ旗の下に急いで参加している。落ち着かないで彼らは自分たちの指導者たちの動きを待ち、見守っている。主の表れを待ち、

見守り、そのために働いている人たちがいるもう一方の種類の人たちは最初の大背信者の統率下に参加している。避けるべき地獄と獲得すべき天国とがあることを全身全霊から信じている人は少ない。」[12]

イザヤ4:1の預言は、完全に成就しようとしています。「その日、七人の女がひとりの男にすがって、『わたしたちは自分のパンをたべ、自分の着物を着ます。ただ、あなたの名によって呼ばれることを許して、わたしたちの恥を取り除いてください』と言う」。

この預言的な象徴では、女が一つの教会（および女の諸教会）を表し、7は完全を象徴し、パンは教理を表し、着物が義を象徴しています。ですから、この預言は全般として、終わりの時代には、イエスの名によって呼ばれることを望みながら、このお方のではなく、自分自身の教理と自分自身の義を述べていることは、最後の時代には、イエスの名によって呼ばれることを望んでいるにもかかわらず、イエスの教理と義ではなく、自分たちの教理と義を持つ諸教会が存在していることを述べています。

牧師たちは、耳ざわりの良い説教を行うことにより、魂が、肉欲の中で眠り続けることを許しています。虚栄心、自己放縦、売春、姦淫を譴責する声は静められ、その代わりに、人々を喜ばせるために、心地よい言葉が講壇から発せられています。

「この危機の時代において教会が必要としているのは、働き人の軍隊である。…勇敢な人々、真実な人々、自分のうちにキリストが形づくられてきた人々、そして、幾千もの人々が作り話を説教しているただなかで、聖なる火に触れられたくちびるをもって、『み言葉を宣べ伝える』人々である。そのような働き人が不足しているため、神のみ事業が衰え、そして致命的な誤りが致命的な毒のように徳のある人々を損ない、多くの人々の希望を打ち砕いている。」[13]

「キリストの初臨においては、天使たちが夜の静寂を破って、賛美し、『いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように』と宣布した。キリストは、まもなく偉大な力と栄光をもって再び来られる。この世と一致していない人々は、現在、必要とされているものは、弱く力のない形式的な講話以上のものであることに気づく。彼らは、み言葉に真剣さと力が伴う必要があることを認める。それは、警告に反対するために陰府の力を目覚めさせる。神は、肉の安全から人々を目覚めさせるために、民に臨もうと意図しておられる。こうして彼らがわたしたちに迫っている大いなる出来事のために準備ができるためである…この時代において、神は、眠気を誘うような単調なメッセージをお受け入れになることはない。」[14]

「多くの声が、誤りを擁護している。あなたの声は、真理を擁護しなさい。神の群れの羊にとって、緑の牧草となるような主題を提示しなさい。あなたの言葉を聞く人々を、荒廃した地、すなわちあなたの話を聞く前と比べて、少しも生ける水の泉に近づかないようなところへ導き入れてはならない。イエスのうちにあるがままの真理を提示し、律法と福音の要求を明確にしなさい。道であり、真理であり、命であるキリストを提示し、このお方に来るすべての人々を救うこのお方の力を告げなさい。わたしたちの救いの将は、神の民のためのとりなしておられるが、御父の情に訴えるための嘆願者としてではなく、勝利者として、ご自分の戦利品をわがものと主張なさるのである。『彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである』というみ言葉が、その事実を明確に示している。」[15]

「自分の説教において雄弁さを最も重視する人は、それを聞いた人々にその雄弁さと混じりあわされた真理を忘れさせる。感情が消え去ると、神のみ言葉は思いに留められておらず、聴衆者は理解において得るところがなかったことが見いだされる。彼らはその牧師の雄弁さに感嘆するが、決断する地点には少しも近づかない。彼らは、その説教について演劇のように語り、牧師を役者のように語る。彼らは、同じような講演を聞くために、再度、訪れるかもしれない。しかし、彼らは、印象づけられることも養われることもなく、去るのである。」[16]

祝福された希望

ウィリアム・ミラーが最も好きだった聖句はテトス 2:13 であったといわれています。「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている」（テトス 2:13）。彼

は、改心の時以来、主の来臨を待ち、早める生涯を送りました。

この再臨信徒の先駆者は、この世の問題の唯一の解決策がキリストの再臨であることを知っていました。そして彼は当時の世界を、間近に迫るキリストの来臨を宣布することによって揺り動かしました。これが彼の祝福された希望でした。

それと同様に、今日の真の信徒たちは、キリストの再臨という祝福された希望のメッセージによってこの世を揺り動かすことが求められています。この世が再び、偽りの安全の中で眠っており、名目的諸教会がこの世の利益と偉大さを求めているこの時にです。

「神は、地上において信仰と聖なる希望のうちに、速やかに成就している預言の巻物をたどり、キリストが現れるときに、礼服を着ていないところを見られないように、真理に従うことによって、自分の魂を清めようと努めている民を持っておられる。」[17]

その日がもし今日だったなら？

親愛なる兄弟姉妹よ、キリストの再臨は、非常に近づいています。そのため、わたしたちは、神の恵みによって待ち望み（献身し）、彼の再臨を（わたしたちの行動によって）早めましょう。

もし、その日が今日ならば、どうでしょうか？準備ができていますか？

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血を注がれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行われ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、きよめの特別な働き、すなわち罪の除去が行われなければならない。この働きは、黙示録14章のメッセージの中でさらに明瞭に示されている。
この働きがなしとげられると、キリストので聖たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである。」[18]

「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。…いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである。…わたしイエスは、使をつかわして、諸教会のために、これらのことをあなたがたにあかしした。わたしは、ダビデの若枝また子孫であり、輝く明けの明星である』。御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』
と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。…これらのことをあかしするかたが仰せになる、『しかり、わたしはすぐに来る』。アァメン、主イエスよ、きたりませ。主イエスの恵みが、一同の者と共にあるように。」（黙示録22:12, 14, 16, 17, 20, 21）

参照文献:
1. 神の驚くべき恵み37
2. 信仰によってわたしは生きる246
3. 上を仰いで92
4. 神の驚くべき恵み37
5. アドベンチスト・ホーム483
6. 青年への使命125
7. ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ1888年2月28日
8. 同上
9. 同上1896年11月3日
10. キリストの実物教訓47
11. 原稿ﾘﾘｰｽ14巻199
12. 各時代の希望下巻105
13. パウロの生涯からのスケッチ326
14. 言葉や歌における声231
15. 福音宣伝者154
16. 同上153
17. 教会への証4巻307
18. 各時代の大争闘下巻140, 141

2021 年 12 月 12 日日曜日

すべてが終わった

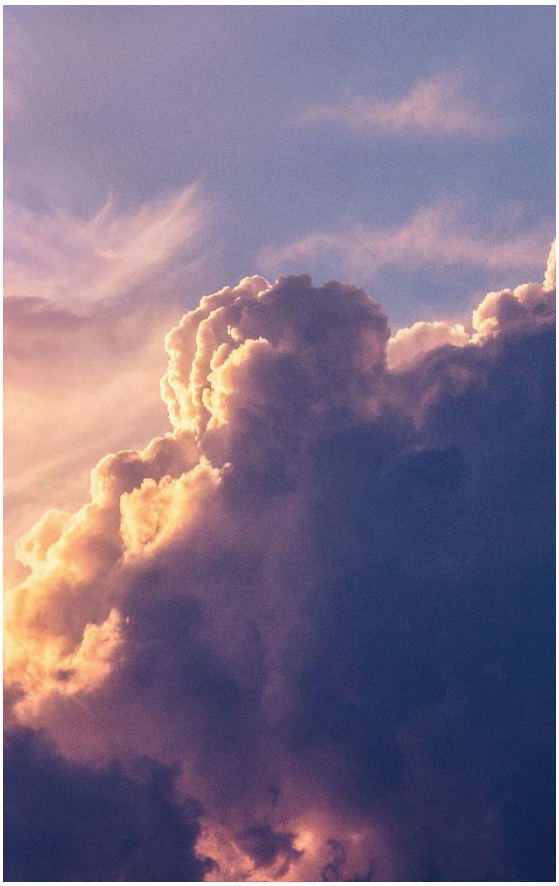
ギタ・ウリチ著

かつてエデンの園において、最初の両親は、善悪を知る木に近づいてはならないという創造主の命令に違反しました（創世記 2:16,17）。神はアダムとエバに話しかけ、また、サタンが彼らをだますための手段として用いた蛇にさえ、話しかけられました。神は、ご自分の命令への不服従について彼らに質問なさいました。また、その後、彼ら、及び彼らの子孫、へび、地球が避けることの出来ない苦しい体験について話されました（創世記 3:8–23）。エデンの園における素晴らしい生活は終わりました。その二人は、幸せで神聖な場所から追い出され、戻ることが出来なくなりました。

人類および地上の全ての創造物が呪われるということを神は宣言なさいました。しかし、神は同時に、救いのための素晴らしいご計画のニュースについても話されました。そのご計画は、人が罪から救われるという希望、彼らを不服従へと誘惑した敵の破滅を示していました。神は次のように約束をされました。「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」(創世記3:15)。

この宣言は、人類の全ての歴史を通じて繰り広げられる人間とサタンの間の、また女のすえと敵およびその手下たちの間の恐ろしい戦い、を預言していました。わたしたちの星を含む全宇宙の創造主によって語られた言葉は、その戦いの最終的な結末、すなわち神と人間にとっての最大の敵の抹殺と、さらにわたしたちを罪から贖うためにご自身を賜物として捧げられたキリストの犠牲のゆえに、アダムの子孫が神のパラダイスに再び確立されるということを預言した。

「贖いに関する最初の予告が、人間に与えられたのは、園でサタンに宣告が下された時であった。主は言われる。『わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう』（創世記 3:15）。アダムとエバが聞いているところで語られたこの宣告は、彼らにとっては、約束であった。そこには、人間とサタンとの戦いが予告されていたが、この大敵の力がついに砕かれることが宣告されていた。アダムとエバは、正しい審判者の前に罪人として立ち、犯した罪の宣告を待っていた。しかし、彼らは、自分たちの分である労苦と悲しみの一生、また、ちりに帰らなければならないという宣告を聞く前に、希望を与えずにはおかない言葉を聞いた。彼らは、大いなる敵の力に苦しまなければならなかったが、最後の勝利を待望することができたのである。」[1]



破壊に関する様々な預言

人類の歴史は、不服従および罪の結果としての一連の災難および破滅によって特徴づけられています。その歴史においては、暴力、異常事態、悪、災難、病気、死が生じています。神は、時に、ご自身が介入することによって、悪の状態を止められました。その一つの例は、地球の創造後、約1,500年後に生じました。なぜなら、その当時の人々の継続的で執拗な神への不服従のゆえに、創造主は、全世界規模での洪水を起こし、この惑星全体を破滅させられたのです。しかし、その例外として、忠実なノアおよび彼の家族―総勢8人および動物たち―は、神のご指示に従って作られた箱舟に乗って救われました。(創世記 6:13–22)。

「『…その時の世界は、御言により水でおおわれて滅んでしまった。しかし、今の天と地とは、同じ御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである』（ペテロ第二 3:5–7）。別のあらしが近づいている。地は、再び神の怒りによって荒廃に帰して一掃され、罪と罪人は滅ぼされる。」2

洪水の後、ノアの子孫は増えました。敵とその手下の欺瞞的な感化力の下、罪と悪事がはびこりました。神のすべての律法への従順のうちに真の信仰を表した人々は、ごく少数でした。

霊感を受けた神のみ言葉、聖書において、ノアは、その忠実な少数の人々のうちのひとり、信仰の英雄として、自分の社会に影響を与えた他の人々と共に名が挙げられています。これらの忠実な人々の体験は、罪に満ちたこの世の終末においてわたしたちが必要としている体験です。その終末の後、神の偉大な救いのご計画により、永遠の天の王国が実現します。ヘブル 11:13–16 参照。

全宇宙の王によって与えられた原則によって支配される聖なる国民となるためにとりわけられた神の民の歴史が聖書に記されています。その人々は、一定の期間が経過した後、異教の習慣と妥協し、神への不服従を継続的に示すことによって自分たちの特別な性質を失いました。神は、創造主のご計画を実現することを失敗した人々に対して、神のみ言葉を伝えるために、預言者たちを選ばれました。この聖なる歴史は、偉大な複数の帝国の興亡を記録しています。個々の帝国は、一定の期間、繁栄しましたが、その後、他の帝国によって破滅へと追いやられました。

預言的な夢

バビロン帝国の最初の王として知られているのは、ネブカデネザルです。彼は、イスラエルの人々を支配下におき、エルサレムを破壊し、彼らを 70 年間、捕虜としてとらえました。神は、この王に対して、印象的な預言の夢を見させましたが、その夢は、将来、地上において発生する帝国に関するものであり、バビロンから始まってからこの世の終末に至るまでの歴史を示していました。

若くて信仰深いユダヤ人捕虜であるダニエルは、神聖な啓示により、その夢について王に説明をすることができました。その頭は純金でできており、胸と腕は銀、腹と太ももは真ちゅう、足は鉄でできており、指は鉄と粘土によって作られていました。また、彼はその夢によって、どの帝国が示されているかについて説明をしました。ダニエル章 2:31-

43 参照。

その夢の中の残りの部分では、これらの世界帝国に関連する最も重要な要素、すなわち神の永遠の御国が起こることによってどのようにそれらが完全に滅亡するかを示しています。**「それらの王たちの世に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立って永遠に至るのです。一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と、青銅と、粘土と、銀と、金とを打ち砕いたのを、あなたが見られたのはこの事です。大いなる神がこの後に起るべきことを、王に知らされたのです。その夢はまことであって、この解き明かしは確かです」（ダニエル2:44, 45)。**

「活動の舞台に現れたすべての国々は、『警護者』にして『聖者』なる神のご目的を成就するかどうかを試みられるために、地上にその地位を占めることを許されたのである。預言は世界の大帝国バビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマの興亡を描いている。これらのどの国も、弱小な諸国家と同じように、歴史を繰り返している。どの国家も試験の期間を与えられていずれも失敗し、栄光は消え、権力は奪われ、その地位は他の国家によって占められた。

それらの国々は、神の諸原則を退け、そのことによって自ら破滅を招いたが、一方また天来の支配的な目的がそれらの国々の動きを通して働いていたことが明らかにされた。」[3]

すべての信徒たちの希望

ネブカデネザル王の夢に出てくる４番目の帝国であるローマ帝国が500年続いた後、メシヤが人類を救う救い主として来られました。主イエスは、ユダヤのナザレで生まれ（マタイ2:1-6）、30歳になるまでナザレでお育ちになりました（ルカ4:16）。その後、３年半の間、永遠の御国に関する福音を宣べ伝え、病人を癒し、罪人に希望を与え、死人をよみがえらせる公生涯を送られました。そして、それら全ての活動および奇跡によって、最終的には救いのご計画を実現されたのです。ガラテヤ4:4,5；ヨハネ3:16参照。

「神は、この世を滅ぼすどころか、かえってこの世を救うために御子をつかわされた。神に背いた世界のいたるところに堕落と反抗が見られたが、その回復の道が備えられた。サタンがまさに勝利しようとするかのように見えたその危機に、神の御子が神の恵みという大使の印を帯びてこられた。どの時代にも、どの時間にも、神の愛は堕落した人類に向かって注がれていた。人間の強情さにもかかわらず、たえず憐れみのしるしが示されていた。こうして時が満ちたときに、神は、救いの計画が達成されるまで妨げられることも取り去られることもない癒しの恵みを、あふれるばかりに世に注ぐことによって栄えを受けられた。サタンは、人間のうちにある神のみかたちをいやしいものにすることに成功したと狂喜していた。その時イエスが、人間のうちに創造主のみかたちを回復するためにおいでになったのである。罪のために堕落した品性を新しく形づくることができるのはキリストよりほかにない。主は人間の意志を支配していた悪霊を追い出すためにおいでになった。主はわれわれをちりの中から起こし、汚れた品性をご自分のきよい品性にかたどってつくり直し、ご自身の栄光をもってそれを美しいものとするためにおいでになった。」4

聖書によりますと、キリストは、最後の時について２つの重要な宣言を行っておられます。それらの宣言は、完全に異なる機会、また、異なる時間においてなされていますが、重要性においては類似点があります。

1．十字架における最後の宣言

ユダヤ人たち、およびユダヤの指導者たちの不信と継続的な反対のただなかで、イエスは捕らえられ、裁判を受け、激しくののしられ、十字架にかけられました。キリストは、二人の強盗の間で十字架にかけられ、ののしる聴衆に囲まれている中、ご自身の霊をみ父にお委ねになったとき、最も重要な宣言をなさいました。「すべてが終わった」。キリストは、地上にける任務の最後に、み言葉と象徴における預言を成就して、ご自身の生命を人類を救うための犠牲として捧げられました。「すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、『すべてが終った』と言われ、首をたれて息をひきとられた」(ヨハネ 19:30)。

「イエスは、ご自身がなすべきみ働きを成就し、『すべてが終わった』と宣言するまで、ご自身の命を放棄されなかった。サタンは敗北した。サタンは、自分の王国が失われたことを知った。『すべてが終わった』という声が聞こえたとき、天使たちは喜んだ。キリストの死に依存していた偉大な救いのご計画は、こうして実行されたのであった。そして、アダムの子らが、従順の生涯を通して、ついには神の御座へまで高められることができることに天では喜びがあった。なんという愛だろう！なんと驚くべき愛だろう！その愛は、神の御子をわたしたちのために罪とするために地上に導き、それによってわたしたちを神と和解させ、栄光のうちにあるこのお方の住まいでこのお方と共にいる生涯にまでわたしたちを高めるのである。」[5]

イエスが死んでよみがえられた後、ご自分の地上の生涯における預言を成就して、イエスはオリブ山で弟子たちの間から昇天されました。弟子たちがまだ残っている間に、二人の天使が現れて次のよう述べました。

「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」（使徒行伝1:11）。

「キリストはこの世に三十三年間とどまられた。主はこの世のあざけり、侮辱、嘲笑に耐えられた。主は捨てられ、十字架につけられた。いま栄光の御座に上ろうとされるとき―ご自分が救うためにおいでになった民の恩知らずをかえりみて―、イエスは、彼らに対する同情と愛を引っ込めておしまいになるのではないだろうか。イエスが、高く評価され、罪なき天使たちがその命令を実行しようと待っている王国に、イエスの愛情が集中されるのではないだろうか。そうではない。イエスが地上に残される愛する者たちへの約束は、『わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる』である（マタイ 28:20）。」[6]

また、わたしたちに与えられているもう一つの保証があります。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである」(ヨハネ 14:1−3)。

霊感を受けて、使徒パウロは、数千年に渡って継続されていた聖所の働きにより象徴されていたキリストのとりなしの働きについて記述しました。「だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。」（ローマ 8:34)。

「わたしたちの救い主は聖所で、わたしたちのために嘆願しておられる。このお方は、わたしたちのためにとりなしてくださる大祭司であり、わたしたちのために贖罪の犠牲を払われたお方であり、わたしたちのためにご自身の血の力で嘆願をしてくださっている。…キリストは苦しまたが、それは、ご自分を信じる信仰を通して、わたしたちの罪が許されるためであった。このお方は人の身代わり、保証人となられた。まったく不当であったにも関わらず、ご自身が刑罰を引き受けられたが、それは、刑罰を受けるべきわたしたちを自由にし、また、十字架にかけられよみがえられた救い主の功績を通して、わたしたちが神への忠誠にもどるためであった。キリストこそ、わたしたちの救いの唯一の希望である。このお方の犠牲を通して、今執行猶予期間中であるわたしたちは、希望をもつ囚人である。わたしたちは宇宙に、堕落した世界に、堕落しなかった諸世界に、神には許しがあることを明らかにしなければならない。神の愛を通して神に和解させられることを示さなければならない。」[7]

2. 天でのとりなしの最後におけるキリストの宣言

キリストは、天の聖所においてわたしたちのためのとりなしの働きをしてくださっていますが、その働きの終わる時が来ます。そのとき、地上の全ての人の運命は、永遠の命または永遠の呪いのいずれかに決定されています。イエスは、その時に、十字架につけられた時の宣言と類似した宣言をなさいます。

「第七の者が、その鉢を空中に傾けた。すると、大きな声が聖所の中から、御座から出て、『事はすでに成った』と言った。すると、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴とが起り、また激しい地震があった。それは人間が地上にあらわれて

以来、かつてなかったようなもので、それほどに激しい地震であった」（黙示録16:17, 18）。

「第三天使のメッセージが閉じられると、もはや地の罪深い住民のための憐れみの嘆願はなされない。神の民はその働きを成し遂げたのである。彼らは『後の雨』と『主のみ前から』来る『慰め』を受けて、自分たちの前にある試みの時に対する準備ができた。天使たちは、天をあちらこちらへと急ぎまわっている。一人の天使が地から戻ってきて自分の働きが終わったことを告げる。すなわち、最後の試みが世界に臨み、神の戒めに忠実であることを示した者はみな、『生ける神の印』を受けたのである。その時イエスは天の聖所でのとりなしをやめられる。…どの人の判決も生か死かに決まった。キリストはご自分の民のために贖罪をなさり、彼らの罪を消し去られた。」[8]

いつ、どのように恩恵期間は閉じるか？

「イエスが人間のために嘆願するのをやめられると、すべての人の将来が決定される．．．恩恵期間が終わる。天におけるキリストのとりなしの働きが終了する。その時は、ついにすべての人に突然おとずれる。真理に従うことによって魂を清めることをなおざりにしてきた人々は、眠っているところを見出される。」[9]

「恩恵期間が終わる時、それは突然、予期せず―わたしたちがまったく予想していなかった時に―終了するであろう。しかし、わたしたちは、今日、天においてきれいな記録をもつことができ、また神がわたしたちを受け入れてくださっていることを知ることができる。」[10]

キリストの再臨は、罪に終わりをもたらす

「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。わたしはアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めであり、終りである。いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである。」(黙示録 22:12−14)。

「主は、まもなく来られる。そして、わたしたちは平安のうちにこのお方に会うために準備をしなければならない。わたしたちは、周囲にいる人々に光を分け与えるために力を尽くしてすべてなすという決心をしよう。わたしたちは、悲しんでいるべきではなく、快活であるべきである。そして主イエスを常にわたしたちの目の前におくべきである。このお方はまもなく来られる。だから、わたしたちは、このお方の来臨のために準備し、待つべきである。ああ、わたしたちがイエスにお目にかかり、贖われた者として迎えられるとは、なんと栄光に満ちたことだろう！長い間、待ち望んできたが、わたしたちの希望はかすんではいない。わたしたちが王をそのうるわしさのうちに見ることさえできれば、わたしたちは、永遠に祝福を受けるのである。わたしは次のように叫ばなければならないと感じる。『家に向かっている！』。キリストが力と大いなる栄光のうちに、ご自分の贖われた人々をその永遠の家に連れていくために来られる時が近づいている。大いなる終わりの働きにおいて、わたしたちは何をすべきか分からず、困惑に直面するであろう。しかし、天における偉大な三人の権威者が働いておられることを忘れないようにしよう。聖なる手が車輪の上におかれ、神は、み約束を成就される。このお方は、義においてご自分に仕える民を世界からお集めになる。」[11]

新たな終わりと新たな始まり

啓示者ヨハネは次のように説明しています。

「わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、『見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして』(黙示録21:1−3)。」

「その日には、贖われた人々は御父と御子の栄光のうちに輝き出る。天使たちは、黄金のハープを弾き、王および王の勝利品―小羊の血によって洗われ、白くされた人々―を歓迎する。勝利の歌が鳴り響き、全天を満たす。キリストが勝利された。このお方は贖われた者たち、すなわちこのお方の苦難と犠牲の使命が無駄ではなかったという証人たちに伴われて天の宮に入られる。

わたしたちの主の復活と昇天は、神の聖徒たちが死と墓に対して勝利をおさめるたしかな証拠であり、また小羊の血で品性の衣を洗い、白くする人々に対して天が開かれているという誓いである。」[12]

「言葉に言い表すことのできない
愛をもって、イエスは忠実な者たちを主の喜びに迎え入れて下さる。救い主の喜びは、ご自身の苦悩と屈辱とによって救われた魂を、栄光の御国において見ることである。」[13]

「大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びの唯一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。一切を創造されたお方から、命と光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れでる。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる。」[14]

「そして、〔イエスは〕わたしに仰せられた、『事はすでに成った。わたしは、アルパでありオメガである。初めであり終りである。かわいている者には、いのちの水の泉から価なしに飲ませよう。勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる』。」(黙示録21:6, 7)。」

世界中の友人方、青年方、兄弟姉妹方、わたしたちは、すみやかに神によって与えられた重要なみ約束の成就に近づいています。罪による影響を受けてきた人類の歴史が終わろうとしています。その後、罪も誘惑者も存在しない永遠の生活が待っています。わたしたちは、罪も苦しみもなく、ご自分の命を与えるほどにわたしたちを愛してくださったお方と永遠に過ごす準備ができているでしょうか。

今日のわたしたちの状況は、どのようなものでしょうか。もし今日わたしと全世界のための恩恵期間が閉じるならば、どのような決定が記されることでしょう。

神が、そのご臨在をもってわたしたちを祝福し、各自の魂をその愛であふれさせてくださいますように。心を尽くして、このお方に会う準備をしましょう。このお方はわたしたちを家に連れ帰ろうと待っておられます。これは、あなたの希望でしょうか。わたしの愛する人々よ、もしわたしたちが天を失うとしたら、それは、全宇宙で最大の損失です。しかし、もし神のみ恵みによって天を得るならば、それは最大の勝利です。この大切な宝に匹敵するものはありません。わたしは、これがわたしたちの体験となるようにと願っています。救いの日ができるだけ早くおとずれ、わたしたちが互いにこのお方の御国で会い、二度と別れることがないように。アーメン！

参照文献:

1. 人類のあけぼの上巻*58*
2. 同上101.
3. 教育*209*
4. 各時代の希望上巻*28*
5. 教会への証2, p. 211.
6. 各時代の希望下巻*381*
7. ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎370
8. 各時代の大争闘下巻*385, 386*
9. 教会への証2巻191
10. *SDA*ﾊﾞｲﾌﾞﾙ･ｺﾒﾝﾀﾘ*[E･G･*ﾎﾜｲﾄ･ｺﾒﾝﾄ*]7*巻989
11. 教会への勧告356
12. 教会への証9巻285, 286
13. 各時代の大争闘下巻*427*
14. 同上467

もしそれが今日であれば？

わたしは何をしているのだろう
自分の聞いてきたすべてのことがある今
そしてわたしはどのように自分の時を用いているだろう？
これはイエスご自身の栄光が輝くためだろうか、
あるいは「軽率さ」という犯罪だろうか。

わたしは人々を助けているだろうか？
わたしの光は輝いているだろうか—
あるいは、自分の世界の中で動けなくなっているだろうか？
わたしは今はたたまれてしまっている真理の旗印をもった
天の恵みの証人だろうか。

わたしのまわりを見れば、
多くのしるしを認めることができる—
しかし、終わりは驚きと共に来るのだろうか？
ずっと昔からあらかじめ語られていたこれらの事件はみな
賢くなれるようわたしたちを導くためであった！

わたしたちはみな競走している
わたしたちの生活は急いでいる…
野心は非常に多くの目標を立てる。
わたしははるかに大きな目的を覚えてきただろうか。
失われた魂を救出するというクリスチャンの目的を？

近い将来、
あらかじめ言われてきたことが非常に多くおこる
預言の示していることが多くある
一瞬一瞬が、今やすべてのものが見るために急いでいる—
苦悩の蔓延した光景を

多くの人々は眠っている
この世の一時的な事柄が
見えるすべてのものを支配しているように。
イエスは準備した人々のために来られる
その思いが真実で、純潔で、きよい人々のために。

わたしは何をしているだろうか？
ああ、わたしは何を考えているだろうか？
ああ、わたしはだれと友になろうとしているだろうか？
わたしはキリストを自分の主として示すために出て行っているだろうか
まだ恩恵期間が続いている間に？

今や時は短い、
そして主はまもなく来られる—
だから、今は遊んでいる時ではない。
「すべてが終わった」という宣告がまもなくなされる！
ああ、もしそれが今日であれば？

イエスはまもなく来られる
わたしたちは自分の思いを
言い表せない喜びと献身で満たすべきである。
真理を担う者として仕える特権が与えられているのだから、
忠実に大胆に捧げよう！

イエスは喜んでしてくださる—
このお方は今ただちにわたしたちを助けて下さる。
このお方を見出すことができるうちに求めよう！
力はそれを求める者に与えられる
このお方の力は大いにあふれる！

今こそ
このお方の愛するみ顔を求める時である
そしてこのお方の与えて下さるみ言葉を味わおう。
神はすべての闇を通じて、わたしたちの救い主であられる。
わたしたちは今高いところで生きておられるお方を賛美する！

イエスは来られる。
このお方は準備ができておられる—わたしたちはどうだろうか？
贖われた者たちを待っている喜びについて考えよう—
ああ、もしそれが今日であれば？

バーバラ・モントローズ著